2011 年度

東京学芸大学 留学生センター

年　報

は じ め に

大学が高度な教育・研究の拠点となるべきことはもちろんであるが、それに加えて本学は、教員ならびに教育マインドをもった高度な人材養成という重大な使命を担っている。グローバル化の進展により、多くの大学が企業同様に国際競争力を高めるための人材確保にしのぎを削っているが、こと本学においては、世界的視野で多文化社会に対応できる人材養成が一層求められよう。そのためには本学学生の海外体験や国際交流の機会を増やすことが一つの方策となるが、とくに教育系においては教育実習をはじめとするカリキュラム上の制約が非常に大きい。2011 年度に 56 の海外交流協定校へ派遣された本学学生・院生は 48 名であり、うち学部教養系学生が 35 名と 7 割以上を占め、教育系は 10 名、院生 3 名であった。これら派遣数は増加傾向にはあるが、全体に占める割合はいまだ少ない。本学のグローバル化に対応した教育体制は大学全体の国際戦略として優先すべき課題であるが、その一方で本学は毎年 350 名前後の留学生を受け入れており、本学の国際化を考える上で、彼らの存在と意味を問い直してみることも重要ではないだろうか。

2011 年度は本学全体で 358 名の留学生を受け入れており（10 月時点、巻末資料参照）、全国の教員養成系大学の中では特出している。留学生の内訳としては、大学院レベルが 237 名と留学生全体の約 66%を占め、とくに修士課程が 114 名と最も多く、博士課程にも 18 名が在籍している。出身国・地域別にみると、中国が全体の約 55%、続いて韓国が約 19%と大きな割合を占めている。しかし留学生全体の出身国・地域は 37 に及んでおり、文化的多様性は大きい。なかでもこの多様性を生み出している留学生として、「教員研修留学生（以下、教研生）」27 名が含まれる。「教員研修留学生」制度とは、本国で教育ないし教育行政にたずさわる立場にある者が日本の大学の教員養成学部で 18 か月間の研修を行い、その成果を帰国後本国でいかしてもらうためのプログラムであり、本制度が創設された 1980 年以来、本学では毎年 10 数名～30 名弱の教研生を受け入れてきた。教研生は在学中、留学生対象科目やその他授業を受講し、附属学校・教育行政機関・施設等の参観・見学や日本文化体験、日本人学生との交流活動等にも参加しつつ、指導教員のもとで個人研究を行う。教研生と本学学生や教員との関わり方は個々の状況により異なると推測されるが、概ね本学学生との関係はさほど密接とはいえないだろう。同時に、本学学生・教職員の多くが彼らの本国や教育に関する知識・経験にふれる機会も非常に少ない。教員養成・人材養成の立場からもこうした現状は、本学に集うグローバルかつ多様な人材をいかしきれていない事例の一つと考える。これまでに教研生として本学で学んだのちに本国に戻って教育現場で活躍する人材が 500 名以上存在することを考えると、潜在的な人的資源の大きさははかりしれない。

留学生に代表される本学の豊かな人材をいかに教育・研究そして本学の国際化につなげていけるかは、留学生教育に携わる本センターが一層意欲的に取り組むべき重要課題と認識される。これまでにも本センターでは、留学生と日本人学生との相互理解・協働を促すべく、日本語日本文化研修生プログラ

ムや短期留学プログラムでの共同授業やプロジェクト、「国際交流カフェ」や交流合宿などさまざまな取り組みを行い、成果を蓄積しつつある。しかし時流を反映しているのか、本学学生の国際交流や留学生に対する関心は全体的には高いとはいえない現状にある。

本学で学ぶ留学生に、学問研究のみならず、日本社会や日本文化に対する認識・理解を深めてもらうことが、様々な問題・対立をかかえる国家間の相互理解を築いていく地道なしかし堅実な歩みになることは間違いない。留学生を、学芸大という場や時間を共有するメンバーとして認識し、一人一人が異なる歴史や文化・伝統、経験、価値観をのりこえ、議論を続けていくための学びあいの場を創ることが今求められているのではないだろうか。

最後に、常日頃、留学生の教育・指導や修学・生活サポートなどさまざまな形でご協力くださっている教職員、学生、学芸大生協、地域の方々にこの場を借りて心より御礼申しあげます。留学生センターの取り組み・活動についてご意見・ご要望などありましたらいつでもお寄せください。

今後とも留学生センターの活動に一層のご協力・ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

東京学芸大学 留学生センター長

椿　真智子

目　次

はじめに

1. 全学留学生対象の事業 …… 1
　1.1 日本語科目
　1.2 日本理解科目
　1.3 見学・交流事業
　1.4 研究支援・生活支援事業

2. 国費研究留学生および教員研修留学生対象の事業 …… 5
　2.1 日本語集中コースおよび一般日本語科目の開講
　2.2 教員研修プログラム

3. 日本語日本文化研修留学プログラム留学生対象の事業 …… 7

4. 短期留学プログラム留学生対象の事業 …… 9

5. その他の活動 …… 11

6. 教員の教育・研究活動 …… 12

資料1　日本語科目一覧 …… 20
資料2　日本理解科目一覧 …… 33
資料3　短期留学プログラム科目一覧 …… 37
資料4　主な行事の写真 …… 51

参考資料　本学における留学生数 …… 52

1.　全学留学生対象の事業

1.1　日本語科目

「日本語 1」（上級）から「日本語 5」（初級）までの 5 レベルに分けられ、以下のように構成されている。

表　日本語クラスの構成

<table>
<tr><th></th><th>授業形態</th><th>必修・選択の別</th><th>クラスの決定方法</th></tr>
<tr><td>日本語 1</td><td rowspan="3">一般
1 科目当り 週 2 時間</td><td rowspan="3">選択</td><td rowspan="4">全学日本語プレースメントテストならびに Can-do statements 調査による</td></tr>
<tr><td>日本語 2</td></tr>
<tr><td>日本語 3</td></tr>
<tr><td>日本語 4</td><td rowspan="2">集中　週 20 時間［日本語 4］
週 28 時間［日本語 5］</td><td rowspan="2">国費研究留学生・教員研修留学生で日本語能力の低い者は必修</td></tr>
<tr><td>日本語 5</td><td>学習歴調査による</td></tr>
</table>

合計 92 枠（春学期 42、秋学期 50）を開講した。
2011 年度のプレースメントテスト受験者は春学期 108 名、秋学期 134 名であった。
電力不足のため大学全体で授業期間が 2 週間短縮され、7 月 15 日をもって授業終了となったが、「日本語 5」については 7 月 22 日まで授業を行った。

1.1.1　日本語１～３

2010 年度は春学期 28 枠、秋学期 36 枠を開講した。「*」印のところにはこれ以外に日本語教育教室で開設している正規の日本語科目がある。

表　日本語科目の種類・レベル・数（春学期）

<table>
<tr><th></th><th>総合</th><th>作文</th><th>講読</th><th>会話</th><th>漢字</th><th>聴解</th><th>文法</th><th>発音</th><th>特別演習</th><th>プロジェクト</th></tr>
<tr><td>日本語 1</td><td>1</td><td>1*</td><td>2</td><td>1*</td><td>1</td><td>－</td><td>1</td><td rowspan="2">1</td><td>*</td><td rowspan="2">1</td></tr>
<tr><td>日本語 2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>－</td></tr>
<tr><td>日本語 3</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>

表　日本語科目の種類・レベル・数（秋学期）

<table>
<tr><th></th><th>総合</th><th>応用</th><th>作文</th><th>講読</th><th>会話</th><th>漢字</th><th>聴解</th><th>文法</th><th>発音</th><th>特別演習</th><th>プロジェクト</th></tr>
<tr><td>日本語 1</td><td>1</td><td>－</td><td>1*</td><td>2</td><td>1*</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td rowspan="2">1</td><td>2*</td><td>－</td></tr>
<tr><td>日本語 2</td><td>1</td><td>－</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td></tr>
<tr><td>日本語 3</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td></tr>
</table>

1.1.2　日本語４

春学期・秋学期ともにそれぞれ 10 枠を開講した。

春学期
　　学　生　数：　7（教員研修生 3、研究留学生 2、交換留学生 2 ）
　　科目と時間：　「総合」10 時間/週、「応用」6 時間/週、「漢字」4 時間/週
秋学期
　　学　生　数：　7（教員研修 3、研究留学生 2、短プロ 1、交換 1 ）
　　科目と時間：　「総合」10 時間/週、「応用」6 時間/週、「漢字」4 時間/週

1.1.3　日本語５

春学期・秋学期ともにそれぞれ 14 枠を開講した。

春学期

学　生　数：　3（研究留学生 1、ISEP 留学生２）

科目と時間：　「総合」16 時間/週、「文字」4 時間/週、「会話」4 時間/週、「聞き取り」2 時間/週、「作文」2 時間/週

秋学期

学　生　数：　8（教員研修留学生８）

科目と時間：　「総合」16 時間/週、「文字」4 時間/週、「会話」4 時間/週、「聞き取り」2 時間/週、「作文」2 時間/週

1.1.4　留学生による授業評価

学部が実施している正規科目用の「授業評価アンケート調査」とは別に独自に実施しているものである。質問項目は日本語、英語、中国語、韓国語の 4 言語で用意してある。科目毎の結果（平均値、標準偏差、自由記述の内容）は各担当教員に報告している。

1.2　日本理解科目（「日本の文化と社会」および「日本理解科目」）

2011 年度日本理解科目は、「日本の文化と社会」（学部開設）と「日本研究科目」（留学生センター開設）として、以下のような科目を行った。（シラバスは資料 2 参照）

(1) 日本の文化と社会

春学期

日本の文化と社会 A（総合教育科学系）　（担当：戸田孝子）
日本の文化と社会 C（人文社会科学系）　（担当：佐藤正光）
日本の文化と社会 E（自然科学系）　（担当：丑野毅）
日本の文化と社会 G（芸術・スポーツ科学系）　（担当：石井健）

秋学期

日本の文化と社会 B（総合教育科学系）　（担当：神埜正子、石川尚子）
日本の文化と社会 D（人文社会科学系）　（担当：椿真智子）
日本の文化と社会 F（自然科学系）　（担当：日高慎）
日本の文化と社会 H（芸術・スポーツ科学系）　（担当：鈴木秀人）

(2) 日本研究科目

春学期

日本研究 A（社会）　（担当：高崎恵）
日本研究演習 B（人文）　（担当：有澤知乃）
日本研究 C（教育）　（担当：遠座知恵）
日本研究演習 D（環境教育）　（担当：小川潔）

秋学期

日本研究演習 A（社会）　（担当：加藤拓）
日本研究 B（人文）　（担当：有澤知乃）
日本研究演習 C（比較研究）　（担当：戸田孝子）
日本研究 D（芸術）　（担当：石井健）

1.3　見学・交流事業

1.3.1　講演会

日本理解に関する講演会を開催した。（4 月：Karen Takizawa, Unwritten Rules of Communication Style、10 月：鴨川仁、What Should We Know about Earthquake and Radiation?、11 月：Matt Gillan, Okinawan Music: A Minority Culture on the National Stage）

1.3.2　国際交流カフェ

日本人学生と留学生との交流を図る趣旨で、毎週金曜日 5 限に「国際交流カフェ」を開催した。毎回学生が司会をして、テーマ討論、ゲーム、国の紹介、クリスマスパーティなどを行った。参加者（異なり度数）は、春学期日本人 32 人、留学生 16 人、秋学期日本人 9 人、留学生 13 人だった。1 回の参加者数は春学期 20 人程度で、秋学期は参加するメンバーが 10 人程度で固定化する傾向があり、来年度以降は企画を考え直す必要がある。

1.3.3　外国語でしゃべランチ

ネイティブの留学生と日本人学生がその言語で交流する場として、春学期は毎週昼休みに「中国語でしゃべランチ」（参加者：日本人 7 人、中国人 10 人）、「韓国語でしゃべランチ」（参加者：日本人 12 人、韓国人 7 人）を開催した。

秋学期には、学芸カフェテリアとの共同企画として、「韓国語でしゃべろう」（参加者：日本人 13 人、韓国人 4 人）、「楽しい中国語」を開催した。

1.3.4　国際交流合宿

西湖・河口湖畔で国際交流合宿を行った。（報告集作成済み）

日　程：2011 年 7 月 16 日（土）～18 日（日）
場　所：山梨県富士河口湖町（桜荘）
参加者：日本人学生 16 名、留学生 31 名、引率教員 2 名、計 49 名
内　容：1 日目は、西湖コウモリ穴でのネイチャーガイドツアー、西湖いやしの里で自然を満喫し、河口湖の宿舎に移動して、花火・湖畔散策、交流会を行った。2 日目は 6 班の班ごとの発表を行い、忍野八海に寄って帰った。
意義と反省：今回は、日本を除き、17 ヶ国・地域からの留学生の参加で、文字通り、国際交流合宿にふさわしい合宿となった。日本語があまり得意でない留学生のために英語班も作ったのも初めての試みである。スタッフ 12 人が企画・運営に尽力してくれた。英語班の学生と日本人学生との交流が必ずしもうまくいかなかったのは今後の反省課題である。

1.3.5　学校訪問

都立高校を訪問し、高校生との交流活動をおこなった（ 1 月：都立国際高校、3 月：都立淵江高校)。

1.3.6　大相撲観戦

2 月に大相撲トーナメントの観戦を行った（留学生参加人数 50 名)。

1.4　研究支援・生活支援事業

生活支援事業の一部をすべての教員が分担した。

留学生からの相談は、留学生センター教員全体で対応した。留学生センター教員が受けた相談件数は、全体（延べ件数）で 74 件、月別の相談件数は下記の表の通りである。

表　月別のべ相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
就学上の悩み	6	3	2	3	0	0	8	2	9	3	2	0	38
進路について	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
経済的な悩み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
対人関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
精神面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
健康面	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
その他	2	2	0	0	0	0	18	0	1	1	1	0	25

2.　国費研究留学生および教員研修留学生（教研生）対象の事業

2.1　日本語集中コースおよび一般日本語科目の開講

国費研究留学生および教員研修留学生に対して日本語教育を行なった。

なお、2011 年度新規渡日の国費研究留学生は春学期 3 名（全員他大学進学者）、秋学期 5 名（他大学進学者は 2 名、残りの 3 名のうち日本語科目を受講しなかった者 2 名）であった。2011 年度新規渡日の教員研修留学生は秋学期 13 名であった。

2.2　教員研修プログラム

2011 年度は、2010 年秋に来日の研修生（以下「2010 教研生」）と 2011 年秋に来日の研修生（以下「2011 教研生」）に対する研修を行った。

［2010 教研生］

2 月に研究報告発表会を開催した。

表　2010 教員研修留学生 研究発表会 発表題目

	氏名	国籍	発表題目	指導教員
1	ハドア，マリア ペルペチア ソコロ（Ma. Perpetua Socorro F. Jadoc）	フィリピン	Reforming Mathematics Education via Problem-Solving Oriented Lesson: Basis for Faculty Development in the Philippines	藤井 斉亮（数学科教育学）
2	カエウチョーテ，ナンタワン（Nantawan Kaewchote）	タイ	Development of Web - online Enhancing Japanese Reading Skills for Mental Retarded at Elementary School	大伴 潔（教育実践研究支援センター）
3	キム ナックヒョン（金 洛賢）	韓国	「総合学習」の韓国教育現場への適用	水崎 誠（幼児教育学）
4	テノリオ，ヴィオレッタ（Violeta Tenorio）	ペルー	Comparison between school system in Japan and Peru. What makes school system successful?	篠原 文陽児（学校教育学）
5	チョ ユンジュ（趙 允珠）	韓国	日本の小学校の学校運営の事例 ―東京学芸大学附属小金井小学校を中心に―	前原 健二（教員養成カリキュラム開発研究センター）
6	ジュキチ，ヴァネッサ（Vanesa Berislav Đukić）	ボスニア･ヘルツェゴビナ	A Comparative Curriculum Research Between Music Education for Elementary School In Bosnia and Herzegovina and Japan	筒石 賢昭（音楽科教育学）
7	ゴンザレス，カレン（Karen Gonzalez Ornelas）	メキシコ	English Education in Japanese Government Junior high schools	高山 芳樹（英語科教育学）
8	ジョルジェヴィチ，トミスラヴァ（Tomislava Đorđević）	セルビア	Challenges of Teaching English as a Foreign Language - Young Learners	粕谷 恭子（英語科教育学）
9	コウ リン（高 倫）	中国	A Comparative Study of Pre-service English Teacher Training and In-service English Teacher Training in China and Japan	馬場 哲生（英語科教育学）
10	ミレヴィッチ，ヘレナ（Helena Miljević）	クロアチア	Everyday Life in Edo Era	川手 圭一（歴史学）
11	ソン シネ（孫 Sinae）	韓国	日本の小学校の漢字教育 ―小学校の1，2年生の国語教材を中心に―	中村 和弘（国語科教育学）
12	ル チャンミャオ（Lu Qianmiao）	シンガポール	Project-Based Learning Practices in Singapore and Japan	浅沼 茂（学校教育学）
13	アン ヒョンミ（安 玹美）	韓国	韓国の小学校における多文化教育の再考 ―韓国と日本の多文化教育の実態の比較を通じて―	渋谷 英章（学校教育学）
14	ジョン ミジン（田 美進）	韓国	（入院中のため不参加）	高山 芳樹（英語科教育学）

見学実習の活動としては、「歌舞伎鑑賞教室」に参加し、日本の伝統芸能を鑑賞した。

［2011 教研生］

8 カ国 13 名で、そのうち 8 名がレベル 5、1 名がレベル 4 の日本語クラスにおいて日本語を集中的に学習した。前年度を引き継ぎ、渋谷英章教員（教育学講座教授、留学生センター長）による「共通基礎セミナー」の開講（秋学期、週 1 回）、研究報告発表会の開催など、同期の教員研修生が相互に刺激し合える場を提供することで、プログラム全体の充実を図った。

表　2011 年度教員研修プログラムの主な行事

年　月	10 教研生：2010.10-2012.3	11 教研生　2011.10-2013.3
2011.04	第 2 回オリエンテーション	
06	歌舞伎鑑賞教室（於：国立劇場）	
10	第 3 回オリエンテーション	来日 面接および第 1 回オリエンテーション 防災館見学
11		附属竹早小学校交流授業および懇談
2011.12		江戸東京たてもの園見学
2012.01	風呂敷ワークショップ 都立国際高校・国際交流会参加	風呂敷ワークショップ
02	研究報告発表会・修了式	三鷹ジブリの森美術館見学
03	帰国	

上記の他、任意で附属小金井小学校、附属大泉小学校との交流授業、石巻教育支援プログラム（「プロジェクト結」ボランティアプログラム）にも参加した。また、学内の国際交流合宿（7 月、留学生センター）や見学旅行（11 月）、外国人留学生交流会（11 月）への参加もあった。

3.　日本語日本文化研修留学プログラム留学生（日研生）対象の事業

3.1　［2010 日研生］2011 年度春学期

2010 年度 10 月入学日研生（10 名）

氏　名	国　籍	指導教員
イェスパー・リュセル	スウェーデン	谷部 弘子
レン・キョク	中国	斎藤 純男
カチョンポン・スリョー	タイ	島田めぐみ
リョン・チーホー	香港	島田めぐみ
クラソチコ・マチルダ	ポーランド	有澤 知乃
グエン・チャン・ティ	ベトナム	岡 智之
ルンド・シモン	スウェーデン	谷部 弘子
レ・ホン・ディエップ	ベトナム	許 夏玲
ディアナ・シュテファーンコヴァー	スロバキア	斎藤 純男
ショール・ラウラ・カミラ	スイス	有澤 知乃

主な行事

4 月 20 日　東日本大地震被災地の子どもたちへのメッセージ作成

6 月 8 日　藍染め体験（小金井公園内江戸東京たてもの園）

6 月 15 日　貫井囃子ワークショップ

6 月 22 日　朝日新聞社工場見学

7 月 13 日　コカ・コーラ社工場見学

9 月 6 日　研究レポート発表会、日研生プログラム修了式

レポート集

レポート集を発行した。

題　目	氏　名
拡張新字体の実態	イェスパー・リュセル
現代中日両国語における略語について ―略語がなぜ流行するのか―	レン・キョク
日本人の電車内での行動	スリヨー・カチョンポン
桜と日本 ―日本人大学生の桜へのイメージ―	チョン・チーホー
日本人のカラオケ文化	クラソチコ・マチルダ
留学生が間違いやすい敬語	グエン・チャン・ティ
日本のソフトパワー ―ポップカルチャーによる親日観形成への影響―	ルンド・シモン
ベトナム語の漢越語と日本語の漢語の対照分析	レ・ホン・ディエップ
伊勢神宮の式年遷宮と日本人の時間の理解	ディアナ・シュテファーンコヴァー
月岡芳年の「新形三十六怪選」	ショール・ラウラ・カミラ

3.2　［2011 日研生］2011 年度秋学期

2011 年度 10 月入学日研生（17 名）

氏　名	国　籍	指導教員
ショール・ヴェシェレーニィ・マテ・アルベルト	スウェーデン	岡 智之
ト・ゲンコウ	中国	谷部 弘子
ジョン・スンファ	韓国	斎藤 純男
グェン・ティ・ヒエン	ベトナム	許 夏玲
グェン・ミン・タオフォン	ベトナム	斎藤 純男
内山・フェリペ・龍平	ブラジル	島田めぐみ
レオスドッティル・ラグンヒルドゥル・エヴァ	アイスランド	島田めぐみ
クローマ・ダニエーレ	イタリア	有澤 知乃
ニゾモフ・ウルグベク	ウズベキスタン	許 夏玲
イヴァノヴァ・アリサ	エストニア	谷部 弘子
ハナ・ブラナー	チェコ	島田めぐみ
ハイナル・クリスティナ	ハンガリー	許 夏玲
グルスカ・アレクサンドラ・アグニェシカ	ポーランド	斎藤 純男
ネゴイツァ・アレクサンドラ・クリスティナ	ルーマニア	岡 智之
ルキナー・スヴェトラナ	ロシア	岡 智之
シロコラデュク・イリヤ	ロシア	谷部 弘子
ユラソワ・イリーナ	ロシア	島田めぐみ

主な行事

11 月 30 日　附属小金井小学校との交流授業

12 月 7 日　文楽鑑賞教室

12 月 14 日　附属小金井小学校との交流授業

12 月 21 日　防災館にて体験学習

1 月 11 日　風呂敷ワークショップ

2 月 1 日　附属小金井小学校との交流授業

2 月 8 日　盆踊りワークショップ

4.　短期留学プログラム（短プロ/ISEP）留学生対象の事業

4.1　2011 年度プログラム概要（2010 年秋学期～2011 年春学期研修生）

4.1.1　日本人学生との協働プロジェクト学習

以下のテーマで日本人学生との協働プロジェクト学習を行なった。

2010 年秋学期：　「外国人学校と日本のマイノリティ問題」

2011 年春学期：　「東日本大震災～世界の反応～」

4.1.2　課外活動

以下の課外活動を行なった。

立川防災館での体験学習、秩父夜祭り見学、歌舞伎鑑賞教室参加、朝日新聞社見学

4.1.3　受け入れ学生（23 名）

	氏　名	所属大学	個人研究テーマ	指導教員
1	CHAN Yuet	香港中文大学	Japanese food culture	池崎喜美恵
2	LEUNG Chun fai	香港中文大学	Neologism and buzzwords in Japanese	上杉 嘉見
3	LI Ho Kan	香港中文大学	Community service through school clubs: The motivation for the Japanese college students	有澤 知乃
4	CHEN Spencer Chao-long	国立台湾大学	Into the zeitgeist of the twenty-first century: manga	馬場 哲生
5	WU Pin-ru	国立台湾大学	Murakami Haruki's English translation and his own novels	粕谷 恭子
6	YU Gowoon	全南大学校	Difference of education between Korea and Japan	高山 芳樹
7	YUN Jihye	公州大学校	Comparison between Korean and Japanese festivals	筒石 賢昭
8	PARK Hyoeun	京畿大学校	Japanese entertainment business: Lessons from the success of animation and its expansion	青山 司
9	SINTHUNANSAKUL Panida	シラパコーン大学	Japanese women after marriage	谷部 弘子
10	SAMMAVIRIYA Panyaporn	シラパコーン大学	Comparative study of Japanese and Thai education	南 道子
11	SUWONGWAN Sarocha	シラパコーン大学	Seasons in Japan: from past to present	有澤 知乃
12	BOONPAN Gantida	シラパコーン大学	Japanese society from TV drama's audience perspective	岡 智之
13	SATJAITHIENG Chatdao	シラパコーン大学	Technology of transportation and mobile phone: Comparison between Japan and Thailand	斎藤 純男
14	STEINECKE Carolin Tabea	ハイデルベルク大学	Ukiyo-e Printing	清野 泰行
15	CLAIRMONT Octavia Chante	ボールステイト大学	Christianity in Japan	有澤 知乃
16	WINN Katie Melissa	ハワイ大学ヒロ校	Superstitions of Japan	橋村 修
17	HARRIS Ruby Lillian	ハワイ大学ヒロ校	Similarities and differences in education between Japan and America	浅沼 茂
18	AYOTTE Kristen	ハワイ大学ヒロ校	*Kokoro* and *Norwegian Wood*: Changing perceptions of suicide in Japan seen through literature	佐野 秀樹

19	BROWN Shelby Lynne	イースタンミシガン大学	Language learning attitudes in Japan vs. America	島田めぐみ
20	SIERPOWSKI Pawel Karol	レスター大学	Influence of national culture on international business contacts	内田 賢
21	LÖVBACKA Linus Anders Olof	ヨテボリ大学	Stories represented in Japanese arts	鉄矢 悦朗
22	HYUN Yaeyoung	キャンベラ大学	Who does Takeshima/Dokdo belong to?	及川英二郎
23	HENDY Alicia Jennifer	ヴィクトリア大学	Old and new in Japan	有澤 知乃

4.2 ISEP Report の発行

ISEP Report No.1 を発行した。

4.3 今後の課題

学生の専門分野が多岐にわたっており、また日本語能力や日本理解の程度にも差があるため、個々の要望に応じた対応を求められている。プログラムとしての目的や目標を明確にしつつ、個々の専門性を深められるような構成に改革していくことが必要である。また、修学成果の評価や単位認定についても今後の課題である。

5. その他の活動

5.1　修了留学生ネットワーク構築事業

修了生からのメッセージと各プログラムの研究レポートの題目の掲載など、留学生センターの情報発信を図った。

5.2　派遣留学支援事業

交流協定校の情報収集と希望者への情報提供を行った。

5.3　その他

5.3.1　自己点検・評価および広報活動

平成 22 年度の年報を発行した。

日本語日本文化研修プログラム、短期留学プログラム、教員研修留学プログラムの紹介ページの設置によりセンターホームページの充実を図った。

5.3.2　防災関連事業

留学生にも防災知識を備えてもらうため、来日直後に防災館での体験学習を実施した。防災マニュアルの英語版（留学生用）を作成し、配布した。

5.3.3　被災地支援事業

2 月 13〜17 日に､引率教員 1 名を含めて合計 10 名の留学生が石巻教育支援プログラム(｢プロジェクト結｣ボランティアプログラム)に参加し、被災地の支援を行なった。また、子どもの学び支援の一環として、学習用品の袋詰めを 100 セット作成し、被災地の子どもたちに送った。

6.　教員の教育・研究活動

■有澤知乃

【所属部門】　日本理解教育部門
【研究分野】　日本研究、民族音楽学

【研究活動】
②論文
1.「横浜中華街の獅子舞：アイデンティティ表現とコミュニティ形成に関する一考察」『華僑研究』創刊号、pp. 130-150、拓殖大学海外事情研究所付属華僑研究センター、2012
2. '*Ryūha* (schools): Construction of musical tradition in contemporary Japan,' *Japan Forum* volume 24, issue 1, pp.97-118, British Association for Japanese Studies. 2012
③口頭発表
Interpretation of *waza*, or "technical artistry": What should be handed down by Living National Treasures for the protection of Japan's traditional performing arts? Sharing Cultures 2011-Proceedings of the 2nd International Conference on Intangible Heritage, Green Lines Institute for Sustainable Development, pp. 171-176, Tomar, Portugal. 3-6 July, 2011
④その他
「長崎華僑と中国文化」『グローバリズムの中の民俗学』平成 23 年度学内重点研究費報告書（研究代表者：岩田重則）、pp.51-64、2012

【教育活動】
留学生センター開設科目
（春学期）Modern and Contemporary Culture of Japan, Traditional Performing Arts of Japan, ISEP Seminar II,「日本研究演習 B」
（秋学期）Cultural History of Japan, Introduction to Japanese Music , ISEP Seminar I, 「日本研究 B」

【その他の活動】
①学内
国際交流委員会短期留学プログラム部会

【所属学会】
International Council for Traditional Music, Society for Ethnomusicology, British Association for Japanese Studies, Association for Asian Studies, 東洋音楽学会、日本音楽学会

■岡　智之

【所属部門】　日本理解教育部門
【研究分野】　日本語文法、認知言語学、対照言語学

【研究活動】
②論文
1.「場所の論理から見た日本語の論理」『日本認知言語学会論文集』第 11 巻、pp. 613-616、2011. 05
2.「ニ格の起点用法について－指向性からの説明－」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』第 63 集、pp. 321-331、2012. 02
③口頭発表
1.「ヲ格のスキーマとネットワーク」2011 年世界日語教育研究大会、天津外国語大学、2011. 08
2.「現代朝鮮語のナル的表現の諸相」日本認知言語学会第 12 回大会、奈良教育大学、2011. 09

【教育活動】
留学生センター開設科目
（春学期）「日本語 2 講読 A」、「日本語 2 総合」
（秋学期）「日本語 1 文法 B」
学部開設科目
（春学期）「専門日本語・学術論文Ⅰ」
（秋学期）「日本語文法論、現代日本語学演習 B」
大学院開設科目
（春学期）「言語学特論 C、ゼミ」
（秋学期）「言語学特論 D、ゼミ」
他大学出講（非常勤講師）
実践女子大学　「日本語教授法演習 a, b」

【その他の活動】
①学内
②学外
1. 科学研究費基盤研究(C)「言語コミュニケーションにおける場の理論の構築：近代社会の問題解決を目指して」（研究分担者）
2. フランス・ボルドー第 3 大学　招聘教授（2011. 10. 01～2011. 10. 28）
3. 日本認知言語学会理事

【所属学会】
日本認知言語学会（理事）、日本言語学会、日本語教育学会、日本語文法学会

■斎藤純男

【所属部門】　日本語教育部門
【研究分野】　言語学、音声学

【研究活動】
①著書
『音声学基本事典』勉誠出版、2011. 08（城生佰太郎・福盛貴弘と共編著）
②論文
The Consonant System of West Middle Mongol, *Altai Hakpo*, 21, pp.51-67, The Altaic Society of Korea, 2011.06
④その他
書評：「土岐哲著『日本語教育からの音声研究』」、『日本語の研究』第 8 巻 1 号、日本語学会、2012. 01

【教育活動】
留学生センター開設科目
（春学期）「日本語 1・2 発音 A」「日本語 5 文字」
（秋学期）「日本語 1・2 発音 B」「日本語 5 文字」
学部開設科目
（春学期）「アジア研究基礎論Ｅ」「アジア文化論Ｄ」
（秋学期）「世界の諸言語」

【その他の活動】
① 学内
1. 教務委員会語学授業運営部会
2. 協定校コーディネーター（ヨーテボリ大学）
②学外
1. 科学研究費補助金基盤研究(B)「中世モンゴル語研究の統合」（研究分担者）
2. 言語聴覚士試験問題作成委員

【所属学会】
日本言語学会、日本音声学会（評議員）、International Phonetic Association、日本音韻論学会、日本語学会、東方学会、The Altaic Society of Korea、日本モンゴル学会（理事）、The Mongolia Society

■島田めぐみ

【所属部門】　日本語教育部門
【研究分野】　言語テスト、言語接触

【研究活動】
①著書
「第 5 章どう評価するか」遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ―その歴史から現場まで―【第二版】』、三修社、pp. 109-129、2011
②論文
「ハワイに残る日本語―「おご」を一例に―」『東京学芸大学紀要人文社会科学系』63、東京学芸大学、pp. 81-88、2012（高橋久子と共著）
③口頭発表
1. 「ハワイにおける日本語語彙の認知に関する研究」修刚・李运博（編）『異文化コミュニケーションのための日本語教育』2011 世界日本語教育大会、天津外国語大学、2011. 08（ハナシロ・チャドと共同）
2. 「中国語話者のための日本語語彙能力認知診断テストの開発」修刚・李运博（編）『異文化コミュニケーションのための日本語教育』346-347、2011 世界日本語教育大会、天津外国語大学、2011. 08（孫媛・谷部弘子と共同）
3. 「Can-do statements 項目から回答者は実際何を想起するか」『日本語教育方法研究会誌』Vol. 18 No. 2、32-33、日本語教育方法研究会第 37 回研究会、京都外国語大学、2011. 09（鹿嶋彰・保坂敏子と共同）
4. 「ハワイ日系人による言語切替えの実態」『東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2011 年度国際学術発表大会発表要旨文』、東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2011 年度国際学術発表大会、パリ国際大学都市日本館、2011. 11
5. 「Can-do statements 項目から回答者は実際何を想起するか―海外の日本語学習者を対象として―」『日本語教育学会研究集会東北地区予稿集』日本語教育学会、76-83、秋田大学、2011. 11（鹿嶋彰・保坂敏子と共同）
④その他
報告書
「聴解」社団法人日本語教育学会編集『平成21年度日本語能力試験分析評価に関する報告書』4-39、pp. 68-81、国際交流基金・財団法人日本国際教育協会、2011
講演
「日本語教育における評価を再考する」琉球大学留学生センターFD研修会、2012. 03. 02

【教育活動】
留学生センター開設科目
（春学期）　「日本語 4 応用 A」、「日研生特別演習 A」「日本語 1・2 特別演習 A（プロジェクト）」
（秋学期）　「日本語 4 会話 B」、「日本語 4 個別指導」、「日研生特別演習 B」「日本語 3 特別演習 B（プロジェクト）」
学部開設科目
（春学期）　「学芸フロンティア科目（留学生と学ぶ世界のことばと文化）」

大学院開設科目
（春学期）　「多言語多文化教育研究法（ce）」

短期研修プログラム
「多言語多文化社会ハワイで日系移民について学ぶ」（2011.9.9-17）企画、引率

【その他の活動】
①学内
1. 協定校コーディネーター（ハワイ大学ヒロ校、エアランゲン=ニュルンベルク大学）
2. 総合的道徳教育プログラム・教材開発ワーキング「国際理解のための教材開発―留学生を通して知る世界のことばと文化―」（平成22年度～23年度）
3. 広域科学教科教育学研究経費「ハワイ日本語新聞『ヒロタイムス』のデジタル化とハワイ日本語の分析」（代表）

②学外
科学研究費補助金基盤研究(C)「ハワイ日系人によるコード切り替えに関する研究」（研究代表者）

【所属学会】
日本語教育学会、日本言語テスト学会、日本テスト学会、日本移民学会、社会言語科学会、東アジア日本語教育日本文化学会

■許　夏玲

【所属部門】　日本語教育部門
【研究分野】　談話分析、語用論、対照言語研究

【研究活動】
③口頭発表
「会話参加者による FTA 軽減ストラテジーの使用実態―日本語母語話者と中国語母語話者の場合―」『社会言語科学会第 29 会大会発表論文集』2012.03
④その他
「外国人日本語学習者のための効果的な会話指導に関する研究―日常会話における『曖昧表現』の使用目的と効果―」、平成 23 年度重点研究費研究課題

【教育活動】
留学生センター開設科目
（春学期）　「日本語 1 作文 A2」、「日本語 2 漢字 A」、「日本語 3 講読 A1」
（秋学期）　「日本語 2 文法 B1」、「日本語 2 会話 B2」、「日本語 5 作文 B」
大学院開設科目
（春学期）　「日本語研究特論 C」、「日本語教育特別研究 I」、「日本語教育特別研究 III」
（秋学期）　「日本語研究特論 D」、「日本語教育特別研究 II」、「日本語教育特別研究 IV」
自主日本語ゼミ（春学期・秋学期）　月 1 回
ワークショップ「コーパスによる日本語の分析」（名古屋大学大学院教授 滝沢直宏氏）の開催、2012.01.21

【その他の活動】
①学内
1. 選挙管理委員会委員長
2. 幼稚園教員資格認定試験実施部会委員
②学外
柳沢公民館主催日本語教師養成講座（第 1 回「学習者の誤用から日本語を見る 1」2011.07、第 2 回「日本語教材の作成」2011.09）

【所属学会】
日本語教育学会、社会言語科学会、香港日本語教育研究会

■谷部弘子

【所属部門】　日本語教育部門
【研究分野】　日本語教育、日本語学

【研究活動】
①著書
1. 「日本語を学ぶ人・教える人」、遠藤織枝編『日本語教育を学ぶ―その歴史から現場まで―【第二版】』三修社 pp. 11-28、2011
2. 関正昭・土岐哲・平高史也編『日本語教育叢書 つくる 漢字教材を作る』スリーエーネットワーク（加納千恵子・大神智春・清水百合・郭俊海・石井奈保美・石井恵理子と共著）
③口頭発表
1. 「中国語話者のための日本語語彙能力認知診断テストの開発」，2011世界日語教育研究大会、中国・天津、2011. 08（『異文化コミュニケーションのための日本語教育』pp. 346-347）（島田めぐみ・孫媛と共同）
2. 「日本語発話末イントネーションの知覚における母語転移の可能性―日本語母語話者および中国人・ドイツ人・フランス人日本語学習者データの比較から―」The 13th International Conference of The EAJS・第16回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム、エストニア・タリン、2011. 8（The 13th international conference of the EAJS Abstracts: Section 10: Translating and Teaching Japanese: Web上）（西沼行博・林明子と共同）
④その他
1. 野口裕之、島田めぐみ、青木惣一、柿山礼美、小柳かおる、三枝令子、孫媛、谷部弘子、和田晃子（2011）『平成21年度日本語能力試験（第1回・第2回）分析評価に関する報告書（CD-ROM） Report on the Analysis and Evaluation of the Japanese-Language Proficiency Test 2009 July/December 』アスク出版（東京）、（分担執筆 pp. 176-195）1-62
2. 「『なので』の文頭使用に関する覚え書き」『ことば』32、pp. 123-133、2011

【教育活動】
留学生センター開設科目
（春学期）　「日本語 1・2 特別演習 A（プロジェクト）」「日本語 3 会話 A」「日本語 4 漢字 A」
（秋学期）　「日本語 1 特別演習 B（時事日本語）」「日本語 2 特別演習 B（プロジェクト）」
学部開設科目
（春学期）　「学芸フロンティア科目 F」
大学院開設科目
（秋学期）　「多言語多文化教育学特論（cm）」

【その他の活動】
①学内
1. 総合的道徳教育プログラム・教材開発ワーキング「国際理解のための教材開発―留学生を通して知る世界のことばと文化―」（平成22年度～23年度）（代表）
2. 重点研究費「教育資源としての世代別日本語自然談話の収集と文字テキストの作成」

②学外

1. 科学研究費基盤研究(C)「外国人学習者の日本語発話末韻律の知覚および意味認知の実験的観察と教育への応用」(2009年度～2011年度)
2. JICA日本語教育支援委員会委員
3. JICA技術専門委員・技術補完研修講師

【所属学会】

日本語教育学会、日本語学会、社会言語科学会（編集委員)、EAJS（ヨーロッパ日本研究協会）

資料１　日本語科目（日本語１～５）一覧（＊印は学部開設科目）

■春学期

レベル１

日本語１総合 A
東泉 裕子（ひがしいずみ ゆうこ）木・2　N313
【目標】 様々な種類の文章を読み、理解したり感じ たりしたことを自分の言葉や方法で表現することによって、総合的な運用能力を身につける。
【内容】対談、エッセイ、台本など様々な種類の文章を含む本を 1 冊読む。その後、グループで課題を決め（本に関連するテーマについて調べて発表する、実際に「ロボット演劇」を演じる、紙芝居や絵本を作成するなど）、最後に発表してもらう。
【テキスト】『ロボット演劇』（大阪大学出版会 2010 年　1500 円）
【評価方法】出席・授業への参加度 50%、課題・発表 50%

＊日本語１作文 A1（専門日本語・学術論文 I）
岡 智之（おか ともゆき）火・2　C203
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。
【内容】大学でのレポートや論文を書くことを想定し、作成に当たるプロセスや方法論に重点を置き、「テーマを設定し、自身の力で調べて得られた情報を根拠として、自身の考えを論じる」ための日本語の力を高める。
1. レポートなどの文章の形式や、論理的文章で用いられる表現について学ぶ。
2. レポートを作成する経過を体験し、その方法論について学ぶ。
3. 自身の理解や考え、レポートの構想などについて、口頭で伝える。
4. レポートを作成する。
【テキスト】浜田麻里他『論文ワークショップ』くろしお出版、2009、2500 円
【評価方法】平常点（授業の参加状況）30%、課題の提出・発表（5 回）30%、最終レポート　40%

日本語１作文 A2
許 夏玲（フイ ハーリン）木・2　N313
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。
【内容】様々な分野で専門的な文章の書き方、スタイルを学ぶと同時に、既習の接続詞、副詞、文末表現等をもう一度確認し、練習を行う。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席 40%　宿題 60%

日本語１講読 A1
横山 和子（よこやま かずこ）月・4　N313
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。
【内容】レポートや学術論文などの文章を読むのに必要な文法知識・構造に関する知識を学びながら、各自の専門分野の論文を読むための基礎的読解力をつけていく。
【テキスト】『大学・大学院 留学生の日本語③　論文読解編』アルク
【評価方法】出席・授業への参加度 50%、定期試験 50%

日本語１講読 A2
桂 千佳子（かつら ちかこ）火・4　N313
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。
【内容】新聞、雑誌をはじめ、実際に出版されて いる本などから、受講者の希望などを参考に、いくつかのテーマについての複数の文章をとりあげて読んでいく。語彙を増やし、わかりにくい文型、表現、文の 構造の解説を中心に進めていく。漢字の読み方やわからない単語の意味などの予習をしてくるように。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 30%　テスト（2 回の平均点）70%

＊日本語１会話 A1（専門日本語・学術発表 I）
齋藤 ひろみ（さいとう ひろみ）木・1　S202
【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。
【内容】話題提供を行ったり、提案されたテーマ についてディスカッションを行う活動を通して、自分の意見や考えを根拠を示して述べる力や、聞き手の理解や反応に応じて述べ方を工夫する力を高める。具体 的には、自身の関心事からテーマを決定し、新聞やインターネットなどから得た情報を利用しながら話題提供をする。それを受けて、グループディスカッションを行う。
【テキスト】特になし。
【評価方法】出席（20%）　授業中の参加状況（40%）　レポート（40%）
★履修学生は 20 名までとする。自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。

日本語１会話 A2
澁川 晶（しぶかわ あき）火・3　W302
【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。
【内容】日本や日本人に関わりのある記事を新聞、雑誌、インターネット等から選び、その記事に関して発表をする。その際、その記 事の内容について疑問に感じたことあらたに興味を覚えたことなどについて、日本人にインタビューしその結果も報告する。このような作業を通して、日本人と の話し方、ハンドアウトの書き方、効果的な発表の仕方を身につけることを目指す。
予想される活動は下記のとおり
自分で：記事を選ぶ、インタビューをする、ハンドアウトを作成する
クラスで：ハンドアウトをもとに記事の内容、インタビュー結果について発表する、クラスメートとの質疑応答・議論
【テキスト】特になし
【評価方法】出席・授業への参加度 50%、発表・ハンドアウト 50%

日本語１文法 A
福島 恵美子（ふくしま えみこ）木・4　N207
【目標】上級の文法項目を習得する。
【内容】日本語能力テスト 1，2 級の対策問題を中心に中上級の文法問題を解きながら、復習、整理し、上級の文法項目を習得する。また敬語□表現を復習し、定着をはかる。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 20%、授業参加態度 20%、小テスト（隔週）30%、期末テスト 30%

日本語１漢字 A
小西 円（こにし まどか）月・3　C102
【目標】1000 字程度の漢字およびそれを使った語彙の運用力をつける。
【内容】各専門分野に特徴的な漢字語の学習を通して語彙を広げていく。先学期に扱わなかった課を中心に、テキストの中から 4〜6 つの課を選んで扱う予定である。課ごとに復習クイズを行い、随時課題も出す。
【テキスト】『Intermediate Kanji Book, Vol.2』凡人社
【評価方法】出席 40%、各課の復習テスト 20%、期末テスト 30%、提出物（宿題）10%

＊日本語１特別演習 A（専門日本語・ビジネス I）
北澤 尚（きたざわ たかし）金・2　N107
【目標】主にビジネスに関する日本語能力を高め、様々な仕事の現場で適切に日本語を運用することのできる実践力を習得する。
【内容】ビジネスや仕事の現場で日本語を用いて 円滑なコミュニケーションを行えるような実践的な日本語能力をアップするための授業である。最初に、日本語表現の基本的なルールについて説明し、その上 で、社会人に不可欠な言葉づかいのエチケット、敬語の基本などについても解説する。さらに、履歴書・エントリーシートの書き方、手紙やメールの書き方、電 話での応対のマナー、ビジネス文書の作成のし方などについて取り上げる予定である。一方的な講義ではなく、頻繁に課題を出し、小テストも行う予定である。
【テキスト】テキストは特に使用せずに、授業中にプリントを配付する予定である。
【評価方法】平常点評価（出席状況、授業への積極的な参加、課題の提出状況）40%　学期末筆記試験 60%

日本語１・２発音 A
斎藤 純男（さいとう よしお）木・5　N313
【目標】日本語らしいアクセント・イントネーションを身につける。
【内容】アクセントとイントネーションの概要を学び、練習する。
【テキスト】プリントを配布する。
【評価方法】出席と授業への取組み状況による。

日本語１・2 特別演習 A（プロジェクト）（学芸フロンティア科目）
島田 めぐみ（しまだ めぐみ）谷部 弘子（やべ ひろこ）月・1　N313
【目標】日本や日本語についての理解を深めるとともに日本語の総合的な運用能力を高める。
【内容】日本人学生とのディスカッションやグループ作業を通して、なるべく具体的な言語・非言語行動を出発点に、日本をふくむさまざまな国・地域のことばや文化の問題をかんがえる。
【テキスト】なし
【評価方法】発表およびレポート、出席、授業時の参加状況などにより総合的に判断する
★学部授業との合同授業です。日本人学生と留学生によるグループ作業をおこないますので、最後まで出席できること、積極的に参加することが条件です。定員 20 名。

レベル２

日本語２総合 A
岡 智之（おか ともゆき）金・3　N313
【目標】他者との考えや意見のやりとりを通して、「自分の考え」を自分自身でつかみ、他者にわかるように表現していくという形で、日本語での表現力をつけていく。テーマを設定し、調査、発表、レポートを書くことを通して、生きた日本語の総合力を身につけていく。
【内容】クラスでの統一テーマを決め、それぞれの興味・関心から各自のテーマを定め、調査、発表、討論、相互評価などの活動を行う。
【テキスト】なし
【評価方法】平常点（授業の参加状況）30%、発表 30%、最終レポート 40%

日本語２作文 A1
桂 千佳子（かつら ちかこ）火・5　N313
【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。
【内容】
1.テキストの内容に沿って日本語の文章を書くために必要なルールを学ぶ。
2.自分の書きたいことを明確にし、それぞれのテーマについて日本語で表現していく。
3.クラスメートの書いたもの、考えたことを互いに知り、コメントする。
【テキスト】『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
【評価方法】出席率 30%　提出物 20%　課題作文 50%

日本語２作文 A2
飯野 清士（いいの きよし）金・2　N207
【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。
【内容】
【テキスト】
【評価方法】

日本語２講読 A1
伊能 裕晃（いのう ひろあき）火・4　N302
【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。
【内容】論文などの論理的な文章を読むための基礎的な読解力（文型・表現の整理、文章構造の理解、など）を養う。教科書以外に、文法や表現の練習、短文を読む練習などもする。
【テキスト】アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語　読解編』アルク
【評価方法】出席 20%、授業への参加度 30%、期末テスト 50%

日本語２講読 A2
岡 智之（おか ともゆき）水・2　S306
【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。
【内容】さまざまな日本語の文章を速く正確に読む技術を習得する。また、ペアやグループでのディスカッション等も取り入れ、読む力をつけていく。
【テキスト】『中・上級者のための速読の日本語』岡まゆみ著、The Japan Times
【評価方法】平常点（授業の参加状況）30%、提出物 30%、期末試験 40%

日本語２会話 A1
伊能 裕晃（いのう ひろあき）火・3　W301
【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。
【内容】敬語のしくみを勉強しながら、いろいろな場面で、会話ができるように練習をします。話す練習だけでなく、会話で使われる表現などを書いて練習する課題があります。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席 20%、授業への参加度 20%、課題 20%、期末テスト 40%

日本語２会話 A2
福島 恵美子（ふくしま えみこ）木・3　N313
【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。
【内容】大学生が主人公の映画をとりあげ、映画の中で使われている語彙、表現を学び、実践に繋がるような会話練習を行う。また関心があるテーマでディスカッションやスピーチを行う。このような活動を続けることによってコミュニケーション能力を総合的に高める。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 30%、授業参加態度 20%、会話 30%、発表 20%

日本語２文法 A
石崎晶子（いしざき あきこ）木・4　S306
【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。
【内容】文章や会話の的確な理解し、表現するために必要な文法や文型の意味、働き、使い方を学ぶ。教科書の後半を中心に授業を進める。
【テキスト】『中級日本語文法要点整理ポイント 20』スリーエーネットワーク
【評価方法】試験、宿題、授業への参加度により、総合的に判断する。

日本語２漢字 A
許 夏玲（フイ ハーリン）月・3　N204
【目標】750 字程度の漢字とその漢字を使ったことばを学習する。
【内容】漢字とその漢字を使った語を勉強する。毎回、小テストを行う。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席 30%、小テスト 30%、期末テスト 40%

日本語２聴解 A
宮本 典以子（みやもと ていこ）金・4　N313
【目標】具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。
【内容】コミュニケーション力アップのための聴解トレーニングを行います。日本語能力試験対策問題集も使用する予定ですが、試験対策中心の授業ではなく総合的な聴解力を養成する授業となる予定です。以下は、授業内容（案）です。
1. 音の聴き分けトレーニング＆ディクテーション（10 分）
2. 聴解問題集（60 分）
3. ドラマ・歌等の聴解（20 分）
【テキスト】オリジナル教材はプリント配布。また日本語能力試験対策問題集（N1～N2 レベル）を使用する予定ですが、授業初回に相談の上決定します。
【評価方法】出席・平常点…40%、テスト（数回）…60%で評価する予定。
★欠席 5 回以上の場合には「失格」となります。

レベル３

日本語３総合 A1
李 貞旼（イ ジョンミン）火・3　N313
【目標】初級後半の文法項目や語彙を復習しながら、中級レベルの語彙表現を学ぶ。具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】中級レベルの語彙（ごい）や文法を勉強していきながら、日本、日本人について書かれた文章を読んでいく。それから、それぞれのテーマに関連した会話や発表をする。
【テキスト】『上級へのとびら』（くろしお出版）
【評価方法】出席・授業への参加度（さんかど）50%、クイズ．語彙．テスト 50%

日本語３総合 A2
李 貞旼（イ ジョンミン）火・4　N313
【目標】初級後半の文法項目や語彙を復習しながら、中級レベルの語彙表現を学ぶ。具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】中級レベルの語彙（ごい）や文法を勉強していきながら、日本、日本人について書かれた文章を読んでいく。それから、それぞれのテーマに関連した会話や発表をする。
【テキスト】『上級へのとびら』（くろしお出版）
【評価方法】出席・授業への参加度（さんかど）50%、クイズ．語彙．テスト 50%

日本語３作文 A
坂田 睦深（さかた むつみ）火・2　N313
【目標】具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる。
【内容】下記のテキストを使用し、表現や文法を 学びながら、正確（せいかく）な書き言葉で原稿用紙（げんこうようし）等に書く。予定では学期中に 6 回原稿用紙に書き提出する。直されたものは必ず清書 （せいしょ）をする。原稿用紙に書く作文（6 回のうち 5 回）と清書は宿題となる。授業中はテキストを読み、短作文等のテキスト中の練習問題を行う。
【テキスト】『にほんご作文の方法』（第三書房）
【評価方法】出席・平常点 50%、原稿用紙に書いた作文とその清書 50%
★出席重視（じゅうし）のクラスで、欠席が 5 回以上の場合には「失格」となります。

日本語３講読 A1
許 夏玲（フイ ハーリン）月・1　N401
【目標】日常的で長くない文章が読めるようになる。
【内容】日本の文化社会、日常の暮らしの理解に役に立つ文章を読む。
【テキスト】プリントを配（くば）ります。
【評価方法】出席 30%　宿題 30%　期末テスト 40%

日本語３講読 A2
小池 恵己子（こいけ えみこ）木・3　N401
【目標】日常的で長くない文章が読めるようになる。
【内容】手紙文やパンフレットなどの生活の中の いろいろな文章を読んで、情報（じょうほう）をつかんだり、短い説明文を読んで内容を理解（りかい）し、文法や構成（こうせい）を学んだりして、読む練習 をする。また、日本文化や現代の社会についてのトピックをとりあげて、ことばを増やし、その使い方も勉強していく。
【テキスト】プリントを配（くば）ります。
【評価方法】テスト 55%、　宿題 20%、　参加度 10%、　出席 15%

日本語３会話 A1
小西 円（こにし まどか）月・2　N313
【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】聞く練習をしながら、会話の表現（ひょうげん）を勉強します。また、話す相手（あいて）によって、表現を変える練習をします。聞く練習やプリントの宿題があります。
【テキスト】『聞いて覚える話し方　日本語生中継　初中級編 2』くろしお出版
【評価方法】出席 40%、期末テスト 50%、提出物（宿題）10%

日本語３会話 A2

谷部 弘子（やべ ひろこ）木・4　N313

【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】自分の経験（けいけん）や自分がよく知っている話題（わだい）について、わかりやすいプレゼンテーションができるように練習します。また、ほかの人のプレゼンテーションを聞いて、わからないときに質問したり意見を言ったりすることができるように練習します。

【テキスト】プリント、国際交流基金関西国際センター（2004）『初級からの日本語スピーチ—国・文化・社会についてまとまった話をするために—』凡人社

【評価方法】出席・参加（さんか）40%、プレゼンテーション 60%

日本語３漢字 A

横山 和子（よこやま かずこ）月・3　N313

【目標】基本漢字 400〜500 を学ぶ。

【内容】クラスでは練習を中心（ちゅうしん）にします。予習（よしゅう）してきてください。毎回小テストをします。

【テキスト】『Basic Kanji Book Vol.2』凡人社

【評価方法】授業（じゅぎょう）への積極性（せっきょくせい）20%、小テスト 40%、定期試験（ていきしけん）40%

日本語３聴解 A

笹目 実（ささめ みのる）金・2　N313

【目標】日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】聞き取り練習（公的なもの、プライベートなもの）、ポイントリスニング、ロールプレイ

【テキスト】

【評価方法】出席　授業への積極性　課題　試験

レベル４

【テキスト】

「総合」　『みんなの日本語 初級 II 本冊』、『にほんご おしゃべりのたね』

「応用」　『みんなの日本語 初級 II 初級で読めるトピック 25』、『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』

「漢字」　『基本漢字 500 Vol. 2』

レベル５

【テキスト】

「総合」　『日本語初級 大地 1，2』

「文字」　『一人で学べる ひらがな かたかな』『Basic Kanji Book, Vol.1』

「会話」

「聴解」

「作文」

■秋学期

レベル１

日本語１総合 B

李 貞旼（イ ジョンミン）火・3　N302

【目標】様々な種類の文章を読み、理解したり感じたりしたことを自分の言葉や方法で表現することによって、総合的な運用能力を身につける。

【内容】評論、小説、エッセイ、ニュースなど様々なジャンルの文章を読んだり聞いたりする。それから、それぞれのテーマについて討論、発表などの活動を行う。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席・授業への参加度 50%、課題・発表 50%

＊日本語１作文 B1［専門日本語・学術論文Ⅰ］
内田 紀子（うちた のりこ）火・2　N406
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。

日本語１作文 B2
伊能 裕晃（いのう ひろあき）火・4　C103
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。
【内容】自分の作文を自分で評価し、推敲する力をつけるために、様々な練習を行う。作文を書くだけでなく、すでにある文章を修正する練習なども行う。また、これとは別に、作文に必要となる副詞などの文法項目について、もう一度確認する練習も行う。
【テキスト】プリントを配布。
【評価方法】出席 20%　宿題 40%　期末テスト 40%

日本語１講読 B1
横山 和子（よこやま かずこ）月・5　N313
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。
【内容】レポートや学術論文などの文章を読むのに必要な文法知識・構造に関する知識を学びながら、各自の専門分野の論文を読むための基礎的読解力をつけていく。
【テキスト】『大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク
【評価方法】出席・授業への参加度 50%、定期試験 50%

日本語１講読 B2
石崎 晶子（いしざき あきこ）木・4　N402
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。
【内容】異なる視点からの情報を読み取り、整理し、伝えることを通して、大学のアカデミックな生活で求められる日本語の習得を目指す。
【テキスト】『上級日本語教科書文化へのまなざしテキスト』東京大学出版会 2500 円＋税
【評価方法】出席・授業への参加度 50%、定期試験 50%

＊日本語１会話 B1（専門日本語・学術発表 II）
斎藤 ひろみ（さいとう ひろみ）木・1　C102
【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。

日本語１会話 B2
小西 円（こにし まどか）月・4　N313
【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。
【内容】授業の前半は、聞き手が理解しやすいプレゼンテーションに必要な要素を考え、必要な表現、レジュメ作成の技法などを学ぶ。後半は、自分でテーマを決め、調査を行い、レジュメを作成し、実際にプレゼンテーションを行う。受講生相互の活発な議論を期待する。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席 20%、授業参加度・提出物 20%、プレゼンテーション 40%、レポート 20%

日本語１文法 B1
岡 智之 （おか ともゆき）水・2　N102
【目標】上級の文法項目を習得する。
【内容】日本語能力テスト 1，2 級の対策問題を中心に中上級の文法問題を 解きながら、復習、整理し、上級の文法項目を習得する。また敬語 表現を復習し、定着をはかる。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 20%、授業参加態度 20%、小テスト（隔週）30%、期末テスト 30%

日本語１文法 B2
新谷 あゆり（しんや あゆり）金・4　N313

【目標】上級の文法項目を習得する。
【内容】日本語能力試験 1、2 級の対策問題などを解きながら、文法項目を整理し、短作文を通じ習得を目指す。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席 20%、課題・積極度 20%、試験 60%

日本語 1 聴解 B
小池 恵己子（こいけ えみこ）木・3　N313
【目標】複雑で抽象的な談話の流れが聞き取れるようになる。
【内容】必要な情報をつかむ、大意をつかむ、流れをつかむ、などの聞き取りの練習をする。ラジオのニュース、あるテーマについての講演、対話やインタビューなどの内容を理解し、上級レベルの表現や慣用的な表現についても聞き取れるようにする。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】テスト 40%、クイズ 20%、授業への参加度 20%、出席 20%

日本語 1 漢字 B
小西 円（こにし まどか）月・3　N202
【目標】1000 字程度の漢字およびそれを使った語彙の運用力をつける。
【内容】各専門分野に特徴的な漢字語の学習を通して語彙を広げていく。先学期に扱わなかった課を中心に、テキストの中から 4 ～ 6 つの課を選んで扱う予定である。課ごとに復習テストを行う。
【テキスト】『Intermediate Kanji Book Vol.2』凡人社
【評価方法】出席 40%、各課の復習テスト 20%、期末テスト 30%、提出物（宿題）10%

日本語 1 特別演習 B（時事日本語）
谷部 弘子（やべ ひろこ）金・1　N207
【目標】現代社会に対する理解を深めながら、ディスカッションなどの活動を行い、自分の考えを論理的に述べる力をつける。
【内容】比較的身近な現代社会の出来事に関する文章やニュースを読み、文章中の内容や表現について確認するとともに、内容について各自意見を述べ、また、他の人の意見を聞いた上で自分の意見を文章化する。
【テキスト】新聞記事など
【評価方法】学習の過程 70%、学習の結果（最終課題）30%

日本語 1 特別演習 B（ビジネス日本語）［専門日本語・ビジネス II］
許 哲（ホチョル）金・2　S107
【目標】主にビジネスに関する日本語能力を高め、様々な仕事の現場で適切に日本語を運用することのできる実践力を習得する。
【内容】日本語に関するコミュニケーション能力向上のための実践的な演習。
【テキスト】授業時にプリントを配布する。
【評価方法】出席状況などの平常点（20 分以上の遅刻は原則として出席と認めない。）学期末の筆記試験（ノート・プリント等の持ち込みはできない。）

日本語 1 特別演習 B（小説で学ぶ日本語）
荒巻 朋子（あらまき ともこ）火・1　N313
【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なものが読めるようになる。
【内容】日本の現代文学にはどのような作家がいるかその概要をつかみ、古いものから新しいものまでいくつかの作品に触れて、日本の小説に対する基本的な知識を得るとともに、小説を読むきっかけを作る。また学生に読んだ小説の発表もしてもらう。
【テキスト】プリントを配布
【評価方法】出席 20%　授業への参加度 20%　課題 30%　発表 30%

日本語 1 ・ 2 発音 B
斎藤 純男（さいとう よしお）木・5　N313
【目標】日本語らしいアクセント・イントネーションを身につける。
【内容】アクセントとイントネーションの概要を学び、練習する。
【テキスト】プリントを配布する。

【評価方法】出席と授業への取組み状況による。

レベル２

日本語２総合 B

横山 和子（よこやま かずこ）月・4　N401

【目標】他者との考えや意見のやりとりを通して、「自分の考え」を自分自身でつかみ、他者にわかるように表現していくという形で、日本語での表現力をつけていく。

【内容】「ライフ・ヒストリー」「好きな言葉」「若者」「外国人」の 4 つのテーマで、図書、新聞記事、統計資料などを読み、現代日本社会についての理解を深めます。内容を予測しながら文章を読む力、読みとった内容を日本語で表現する力、物事に対する自分の意見を論理的に述べる力をつけることを目指します。配布するプリントを各自予習することになっており、クラスではより理解を深めるためのグループ活動を中心に行います。また、テーマごとに、発表やインタビュー結果の報告などの活動を行います。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】授業への積極性 50%、活動（内容・日本語）50%

日本語２作文 B1

桂 千佳子（かつら ちかこ）月・2　N202

【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。

【内容】テキストで学んだことを生かして作文を書く。

【テキスト】『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アルク

【評価方法】出席率 30%　課題＋テスト 70%

日本語２作文 B2

李 貞旼（イ ジョンミン）火・4　S402

【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。

【内容】様々な分野での文章の書き方、スタイルを学ぶと同時に、日本語の文章を書くために必要なルールを学ぶ。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席・授業への参加度 50%、課題・発表 50%

日本語２講読 B1

桂 千佳子（かつら ちかこ）月・3　N313

【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。

【内容】テキストの読む技術を参考にしながら、生教材を読む。

【テキスト】『速読の日本語』, 配布プリント

【評価方法】出席率 30%　2 回のテストの平均点 70%

日本語２講読 B2

小池 恵己子　（こいけ えみこ）木・4　N401

【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。

【内容】説明文、物語文などの文章を読んで、情報や内容を正確（せいかく）につかむとともに、文法や表現段落構成（だんらくこうせい）について学ぶ。日本文化や社会に関する記事を読んで、内容を理解し、そのトピックについて考える。いろいろな文章を読むことによって、ことばを増やしていく。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】テスト 60%、宿題・提出物　15%、授業への参加度 10%、出席 15%

日本語２会話 B1

荒巻 朋子（あらまき ともこ）火・2　N313

【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】場面や話し手に合わせ、適切な会話ができるように、ローププレイなどを通して練習する。またＴＶ番組を見てディスカッションの練習、新聞記事などについてのスピーチの練習も行い、総合的な会話能力を高める。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】出席 20%　授業への参加度 30%　課題 30%　発表 20%

日本語２会話 B2
許 夏玲（フイ ハーリン）火・5　N313
【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。
【内容】いろいろな場面で会話できるように練習します。話し言葉の特有の表現も学びます。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 40%、授業参加態度 30%、会話テスト（2 回）30%

日本語２文法 B1
許 夏玲（フイ ハーリン）火・1　S407
【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。
【内容】談話文法を中心に、学習者にとって難しいと思われる文法項目や文型の意味、用法、機能を学び、類似表現との使い分けができるように練習します。
【テキスト】プリント配布。
【評価方法】出席 40%、宿題 30%、中間テスト・期末テスト 30%

日本語２文法 B2
李 貞旼（イ ジョンミン）金・2　N313
【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。
【内容】文章や会話を的確に理解し、表現するために必要な文法や文型の意味、機能を学ぶ。教科書の中の課を選択して授業を進める。
【テキスト】『中級日本語文法要点整理ポイント 20』（スリーエーネットワーク）
【評価方法】出席・授業への参加度 40%、小テスト 30%、期末テスト 30%

日本語２漢字 B
伊能 裕晃（いのう ひろあき）火・3　N301
【目標】750 字程度の漢字とその漢字を使ったことばを学習する。
【内容】漢字とその漢字を使った語を勉強し、使い方を覚える。毎回、小テストを行う。
【テキスト】『Intermediate Kanji Book,Vol.1』凡人社
【評価方法】出席 20%　宿題 40%　期末テスト 40%

日本語２聴解 B
上野 左絵（うえの さえ）木・2　N313
【目標】具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。
【内容】さまざまな種類の音声や映像を通じて、聞き取りの練習をする。
【テキスト】初回の授業で相談して決定する。
【評価方法】出席・授業への積極性 50%、テスト 50%（小テストを含む）。5 回以上の欠席は失格とする。

日本語２特別演習 B（ドラマで学ぶ日本語 ）
宮本 典以子（みやもと ていこ）水・2　S207
【目標】まとまった談話の流れが理解できるようになる。自分の考えを伝えることができるようになる。
【内容】主に 2000 年以降の日本のドラマや映画を鑑賞し、「話しことば」を実践的に学びます。2～3 週で 1 作品の予定。作品ごとに感想シートを提出。作品は 1 回目に協議して決定します。学習した語彙・表現等は各自ノートに整理。ノートを提出した場合、成績の参考にします。
【テキスト】なし。
【評価方法】授業への参加度 40%、感想シート 40%、語彙・表現ノートの作成提出 20%

日本語２特別演習 B（マンガで学ぶ日本語）
宮本 典以子（みやもと ていこ）金・3　N313
【目標】マンガの特有の会話表現を学ぶ。具体的なまとまった談話が理解できるようになる。
【内容】「話しことば」や「オノマトペ」など、漫画・アニメの表現を実践的に学びます。使用作品は、第 1 回目の授業で協議して決定します。2～3 週で 1 作品の予定。学習した語彙・表現等は各自ノートに整理。ノートを提出した場合、成績の参考にします。
【テキスト】なし。（参考：あずまきよひこ著『よつばと！』第 1 巻を使用予定。）

【評価方法】授業への参加度 40%、クイズ 40%、語彙・表現ノートの作成提出 20%

日本語２特別演習 B（ビジネス日本語）
福島 恵美子（ふくしま えみこ）木・3　N101
【目標】ビジネス場面での電話応対や連絡・報告などができるようになる。
【内容】面接や電話応対など、ビジネス場面で見られる会話について学習し、実践につながるような会話練習を行うことで、ビジネス・コミュニケーション能力を身につける。また、ビジネス場面で重要になる敬語についても学習する。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 20%、参加態度 20%、会話・発表 40%、レポート 20%

日本語２特別演習 B（プロジェクト）
谷部 弘子（やべ ひろこ）島田 めぐみ（しまだ めぐみ）火・3 火・4　N313
【目標】教室内外の活動を通して、相手や内容に応じて発信する力をつける。
【内容】テーマに沿って調べたり発表したりする。小学校訪問など授業時間以外にも活動をおこなうことがあるので、積極的に参加できることが条件です。
【テキスト】なし
【評価方法】授業への参加状況や課題・発表など総合的に評価する。

日本語１・２発音 B
斎藤 純男（さいとう よしお）木・5　N313
【目標】日本語らしいアクセント・イントネーションを身につける。
【内容】アクセントとイントネーションの概要を学び、練習する。
【テキスト】プリントを配布する。
【評価方法】出席と授業への取組み状況による。

レベル３

日本語３総合 B
笹目 実（ささめ みのる）水・1　N313
【目標】初級後半の文法項目や語彙を復習しながら、中級レベルの語彙表現を学ぶ。具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】文型、読み物、アンケート調査、発表
【テキスト】佐々木薫・田口典子・安藤節子・赤木浩文・草野宗子『トピックによる日本語総合演習テーマ探しから発表へ中級前期』スリーエーネットワーク
【評価方法】出席日数 授業態度 発表

日本語３応用 B
笹目 実（ささめ みのる）水・2　N313
【目標】初級後半の文法項目や語彙を復習しながら、中級レベルの語彙表現を学ぶ。具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】文型、読み物、アンケート調査、発表
【テキスト】佐々木薫・田口典子・安藤節子・赤木浩文・草野宗子『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期』スリーエーネットワーク
【評価方法】出席日数 授業態度 発表

日本語３作文 B
坂田 睦深（さかた むつみ）火・2　N307
【目標】具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる。
【内容】下記のテキストを使用し、表現や文法を学びながら、正確（せいかく）な書き言葉で原稿用紙（げんこうようし）等に書く。予定では学期中に 5 回原稿用紙に書き提出する。直されたものは必ず清書（せいしょ）をする。原稿用紙に書く作文とその清書は宿題となる。授業中はテキストを読み、短作文等のテキスト中の練習問題を行う。
【テキスト】『表現テーマ別にほんご作文の方法』（第三書房）

【評価方法】出席・平常点 30%、作文（原稿用紙）・清書 50%、期末テスト 20%で評価する予定。出席重視（じゅうし）のクラスで、欠席が 5 回以上の場合には単位は認められない。

日本語３講読 B
上野 左絵（うえの さえ）木・1 N313
【目標】日常的で長くない文章が読めるようになる。
【内容】日常生活の中で触れるさまざまな文章を取り上げて、そこから情報を読み取り、内容を理解するための練習をする。文章に特有の表現や語彙についても学ぶ。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席・授業への積極性 40%、テスト 40%、宿題 20%

日本語３会話 B1
小西 円（こにし まどか）月・2 N313
【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】聞く練習をしながら、会話の表現（ひょうげん）を勉強します。また、話す相手（あいて）によって、表現を変える練習をします。聞く練習が宿題になります。
【テキスト】『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1』くろしお出版
【評価方法】出席 40%、中間・期末テスト 50%、提出物（宿題）10%

日本語３会話 B2
福島 恵美子（ふくしま えみこ）木・4 N313
【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】依頼や誘いなどの会話をとりあげ、敬語を中心に人間関係や場によって異なる表現や方法などを身につける。学期後半は、学習した会話を使用して、グループでミニドラマを作成し、発表する。
【テキスト】プリント配布
【評価方法】出席率 30%、参加態度・宿題 30%、会話 20%、発表 20%

日本語３漢字 B
横山 和子（よこやま かずこ）月・3 N202
【目標】基本漢字 400～500 を学ぶ。
【内容】クラスでは練習を中心（ちゅうしん）にします。予習（よしゅう）してきてください。毎回小テストをします。
【テキスト】『Basic Kanji Book Vol.2』凡人社
【評価方法】授業への積極性 20%、小テスト 40%、期末試験 40%

日本語３聴解 B
李 貞旼（イ ジョンミン）金・1 N313
【目標】日常的で具体的な談話が理解できるようになる。
【内容】日本や日本人に関する会話及びビデオを通じての聞き取り練習、ロールプレイ。
【テキスト】『上級へのとびら』くろしお出版
【評価方法】出席・授業への参加度 50%、クイズ・宿題・テスト 50%

日本語３特別演習 B（プロジェクト）
桂 千佳子（かつら ちかこ）月・4 N402
【目標】日本や日本語についての理解を深めるとともに日本語の総合的な運用能力を高める。
【内容】日本の詩やことわざについて調べ発表することを通して、日本文化を理解する。また自分の国の詩やことわざを通して自文化を紹介する。
【テキスト】配布プリント
【評価方法】出席 20% 課題提出 40% 発表、授業参加度 40%

レベル４
【テキスト】
「総合」 『みんなの日本語 初級 II 本冊』、『にほんご おしゃべりのたね』
「応用」 『みんなの日本語 初級 II 初級で読めるトピック 25』、『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』

「漢字」　『基本漢字 500 Vol.2』

レベル５

【テキスト】

「総合」　『日本語初級 大地 1，2』

「文字」　『一人で学べる ひらがな かたかな』『Basic Kanji Book, Vol.1』

「会話」

「聴解」

「作文」

資料 2　日本理解科目一覧

1. 日本の文化と社会（学部開設科目）

■春学期

日本の文化と社会 A

戸田 孝子（とだ たかこ）　木・2　S202

【目標】この授業は、「日本の文化や社会」について、留学生が、日本語で発表したり、討論したりする能力を高めていくことを目標としています。特に、日本人の思考様式について、伝統的な東洋と西洋のものの見方・考え方が、現代社会でどのように交錯しているか、具体的なテーマを広い視点から考察してみます。留学生自身の自由なテーマ設定による発表・討論の時間も用意しています。

【内容】授業は、二つの部分に分かれています。一つは、留学生がそれぞれ、自由に、自分の関心のあるテーマについて短い発見をスピーチしたり、少し詳しく調べた内容をパワーポイントを使って発表したり する部分、もうひとつは、共通のテキストで、文献を解釈し、理解したテーマについて、グループに分かれ意見を述べ合い、その結果を、クラス全体に報告する 部分です。テキストの一つは、やや抽象的な解釈の必要な日本語のもの、もうひとつは、英語からの翻訳を通して、日本語表現を学ぶための教材です。

【テキスト】今道友信『東西の哲学』TBS ブリタニカ、1981 年
Richard E. Nisbett. The Geography of Thought. Free Press. New York, 2003.の抜粋

【評価方法】出席、授業演習の記録、学期末レポートによる総合的評価。

日本の文化と社会 C

佐藤 正光（さとう まさみつ）　木・1　N207

【目標】日本の文化や社会についての疑問や理解しがたい点を、受講生自身の問題意識を出発点として、受講者全員で考察していく。それにより外国人の視点と日本人の考え方とから、日本の文化や社会を相対化しながら理解する。

【内容】受講生が自分の視点から日本の文化や社 会についてテーマを決め、自分で調べて発表してもらい、それに基づいて全員で討論して理解を深めてゆく。発表では、自分で作成したレジュメとパワーポイン トを用意してもらう。レジュメについては、事前に私が添削を行い、日本語の文章力も向上するように心がける。パワーポイントでは、映像資料も利用して発表 内容を要領よく日本語で紹介できるように工夫する。テーマは、「桜と日本人」、「日本人の好きなスポーツ」、「日本のアニメの魅力」、「日本のハイブリッ ド車」など限定しない。

【テキスト】各自の発表レジュメを用いる。レジュメは事前に発表者が人数分を用意する。

【評価方法】受講生の発表内容と、討論での発言などを総合して評価する。出席を重視し、評価にも反映させる。

日本の文化と社会 E

丑野 毅（うしの つよし）　月・1　N106

【目標】

【内容】人と他の動物を区別する大きな要素とし て道具の使用があげられる。道具はさまざまな形と機能を持つが、それ自身使用者の必要に応じて形や機能ばかりでなく、それを構成している素材も変化を遂げ てゆく。先史時代という文化と社会の中で、人々はどのような道具を作り、どのように使用して生活を営んでいたのか。文化や社会が成熟してゆく過程を道具の 発達から読みとる。

【テキスト】

【評価方法】

日本の文化と社会 G

石井 健（いしい たけし）木・1　書実 II

【目標】日本の伝統的な芸術である書道や日本の文字文化について、毛筆や硬筆の実技を通して考える。

【内容】はじめに、ボールペンやシャープペンシル、鉛筆などを使って、ひらがな、カタカナ、漢字の正しい字形を身につける。その後、署名、はがき、封書、のし袋など日本の日常生活の中で用いられる実用 書について、実技を中心に学んでいく。後半は、毛筆による書道作品の制作を行い、完成した作品を表装し、可能であれば学内のアートギャラリーなどを利用して展覧会を行う予定である。

【テキスト】とくに用いない。

【評価方法】実技を中心とした授業なので出席を重視する。出席状況と提出作品の内容を合わせて評価する。

■秋学期

日本の文化と社会 B

神埜 正子 （かみや まさこ）、石川 尚子 （いしかわ なおこ） 月・1 N101

本科目は、諸外国の影響を受けながら、長い年 月をかけて日本人が生み出し、育んできた、衣 生活・食生活について、階層、時代、地域などを切り口に、文化の視点から捉えようとするものである。衣生活や食生活に生かされたこうした知恵や文化がいかに継承されているかなどを学んで、現在の日本の文化と社会を再認識するきっかけとし、生活文化の視点から日本への理解を深めてほしい。

【内容】衣生活については、古代から現代に至る変化をとらえ、それぞれの時代の文化 の成立と現在まで受け継がれている伝統行事の関連で展開する。食生活については、日本の食文化を社会の変化と共にとらえ、さらに今日の食生活の問題点に触れつつ、食生活・食文化の発展とは何かについて考える。

【テキスト】特になし。

【評価方法】平常点評価（授業への参加状況）50%。レポートおよびペーパーテスト 50%（各講師の持ち点 25%ずつ）。①1～7 週（神埜）については毎回のまとめのミニレポートおよび最終日（7 回目）のペーパーテスト。②8～15 週（石川）については毎回のミニレポートおよび最終日（15 回目）のペーパーテスト。このテストには、配付資料の持ち込みを可とする。

日本の文化と社会 D

椿 真智子（つばき まちこ） 木・1 C103

日本の文化や社会について、おもに風土 や文化、景観、人口構造、生業などをとおして、その特徴や変化、地域的などを理解するとともに、それらを考察するための視点や方法を習得する。

【内容】地理的な視点を軸として、日本の社会や生活文化、景観、生業形態などの特徴とその背景について解説し、また近代以降、日本の社会や文化がどのような変化をとげて現代的特徴を持つにいたったのかを論じる。

【テキスト】とくに使用しない。授業時に必要に応じてプリント・資料等を配布する。

【評価方法】学期末の筆記試験（60%）と出席（40%）で評価する。

日本の文化と社会 F

日高 慎 （ひだか まこと） 木・1 S102

本講義では考古学をもとにして旧石器時 代から近代・現代までの日本歴史・文化 について通観する。考古学は発掘調査に よって出土した遺構・遺物をもとに歴史を復元する学問である。歴史はかかれたもの、すなわち文献史料を用いて説明を 行うことが多いものの、考古学の成果を無視しては日本歴史は語れない。本講義を通じて考古学の特徴を理解してほしい。

【内容】考古学は発掘調査の成果から歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの（文献史料）で説明されることが多いが、かかれたものはきわめて限定的であるとともに、支配者側の論理によって書き留められることが多い。つまり文献史料だけで歴史を語ることは、一方的な歴史解釈になってしまいがちである。それに対して考古資料は人々の生活そのものが残されることが多い。考古学の成果を通じて日本歴史・文化を考えたい。

【テキスト】なし

【参考文献】図解・日本の人類遺跡（東京大学出版会）、図解・日本の中世遺跡（東京大学出版会）

【成績評価】平常点40%、最終テスト60%。平常点は出席及び小レポートによって採点する。最終テストは授業で取り上げたテーマに関して出題し、解答をまとめる。

日本の文化と社会 H

鈴木 秀人 （すずき ひでと） 月・1 N206

日本の文化と社会についての理解を深める。

【内容】特に、外来の文化としてのスポーツの受容と固有の文化としての武道の変容に焦点を当てながら、日本の文化と社会について知る。

【テキスト】なし

【評価方法】出席と授業への取り組み

＊「日本の文化と社会A・C・E・G」は、春学期に開講します。「日本の文化と社会」の授業内容は、「大学ホームページ＞学内ネットワーク＞シラバス検索」からも見られます。

2. 日本研究科目

■春学期

日本研究 A（社会）
高崎 恵（たかさき めぐみ）　水・1　S207
【目標】単一民族日本を標榜する言説は、批判を浴びながらも思い出した ように繰り返されています。この現実は、単一の民族・文化・言語からなる同質的な日本というイメージの根強さを示しています。本授業では、こうした同質 的・単一的な日本イメージを再考することを目的としています。
【内容】前半では、日本の「伝統」、マイノリティーグループ、経済格差、宗教など種々のテーマの検討を通し、同質的な日本イメージがどのように形成され定着してきたのか、現代日本はどれほどの多様性 を秘めているのかを講義します。後半は、前半の議論を踏まえ、「日本イメージ」について、受講生の自由研究および発表の機会を設ける予定です。受講生の皆 さんの個人研究とその発表の機会を設ける予定です。積極的な参加を期待しています。
【テキスト】特に用いない
【評価方法】平常点、研究発表、レポートを総合的に評価する予定。

日本研究演習 B（人文）
有澤 知乃（ありさわ しの）　火・3　S207
【目標】各地に伝わる民俗芸能の歴史や変遷を学び、人と芸能の関係について考えます。
【内容】日本各地で行われている、演劇、人形芝居、歌謡、舞踊、大道芸などの民俗芸能を、映像資料を見ながら学びます。かつての社会では、どのような階級の人々が何の目的で芸能に携わってきたのでしょうか？ そして、今日では民俗芸能を行うことにどのような意義があるのでしょうか？ 受講生の皆さんにも調査を行ってもらい、芸能を通して、各地の風俗、信仰、家族や共同体の在り方など、日本の様々な姿について一緒に考えたいと思います。
【テキスト】とくに定めません。
【評価方法】平常点 15%、発表 25%、レポート 60%

日本研究 C（教育）
遠座 知恵（えんざ ちえ）　火・2　S206
【目標】歴史的な視点から日本の教育について学び、その特徴に対する理解を深めていく。自国の教育ともぜひ比較してみてほしい。
【内容】古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいく。日本は古代から海外の影響を受けて発展してきた国であり、教育についてもその例外ではない。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本でどのような教育が行われてきたのかを紹介していく。プリントやビデオなど、できるだけわかりやすい資料を 使いながら授業を進めていく。
【テキスト】とくに用いない。読みやすい参考文献を紹介したいと考えている。
【評価方法】出席・授業内小レポート（40%）と学期末試験（60%）で評価を行う。

日本研究演習 D（環境教育）
小川 潔（おがわ きよし）　火・5　S206
【目標】日本における環境教育の概要を知るとともに、東京都心の自然と歴史を中心とする環境教育フィールドワークを体験して、都市の自然と文化を学ぶ。
【内容】日本における環境教育と環境問題の歴史的展開を学ぶ。日本における環境教育の特徴の一つである野外体験学習を実践する。テーマは、東京の自然と生活文化の歴史とし、都心の上野・谷中地域のフィールドワークを体験する。その体験結果を共有する。
【テキスト】とくに用いない。上野の地域史に関する資料を用意する。
【評価方法】授業への参画 50%　発表 20%　レポート 30%を目安とする。

■秋学期

日本研究演習A（社会）

加藤 拓（かとう たく）　金・4　N202

日本国内での小売サービス業の歴史的、空間的な発展について分析し、消費者行動との関連を考える。

【内容】日本の小売サービス業には、百貨店、アウトレット・モール、郊外型大型ショッピングセンターなど広域から集客する業態から、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ファースト・フード、100円ショップなど店舗を近くに集中させる業態まで、様々な種類が存在する。それらの発展の歴史的背景や地域展開、社会問題などを紹介する。受講生の皆さんには、自国の代表的な企業について分析し、日本の企業との共通点と相違点を発表していただく予定です。

【テキスト】とくに定めません。

【評価方法】平常点20%、発表40%、レポート40%

日本研究B（人文）

有澤 知乃（ありさわ しの）　火・2　S305

日本の祭りについて、宗教、社会、文化など様々な観点から考察します。

【内容】日本全国の祭りについて、映像資料を見ながら学びます。京都の祇園祭では、どうして華やかな山鉾を曳いて人々が街を練り歩くのでしょうか？ 盆踊りの歌や踊りに込められている意味は？ 札幌雪まつりが国際的な祭りに発展した背景は？ 各地の人々の風俗や信仰が、祭りの中にどのような形で表れているかを考え、更に現代社会における祭りの変遷や新しい取り組みについても議論します。課題として、各自で祭に行ってフィールドワークを行い、観察したこと、考えたことについて発表をしてもらいます。

【テキスト】とくに定めません。

【評価方法】平常点15%、発表35%、レポート50%

日本研究演習C（比較研究）

戸田 孝子（とだ たかこ）　火・5　W301　フィールドワークを含み15時間

【ねらい】この授業は、比較文化の視点から、主に「学校、教育、教師、子供、若者」をテーマに、日本人学生との討論、日本の小学生とのコミュニケーションを通し、理解を深めることをねらいとしている。

【備考】火曜日の5時限に毎回参加する必要はない。学校訪問日は、国分寺駅朝8時30分集合となる、交通費、給食費は、各自用意する。メール登録し、「日本研究C連絡」をチェックする。

【内容】①10月18日、授業の概要についてオリエンテーションを受け、メールで受講登録をする。②日本人学生に伝える母国の事情について、「学校、教育、教師、子供、若者」の中から一つテーマを選び、パワーポイントを用いた短いプレゼンテーションを準備する。③少人数の日本人学生のクラスで、発表し、互いに興味のある具体的問題について、質問し合う。④日本の小学校へ送る自己紹介の絵手紙を準備する。⑤返信手紙を受け取った子供のクラスを訪問して一日を一緒に過ごす。⑥発表をした日本人の学生のクラスで、日本の小学校体験の感想をスピーチし、互いに、興味のある具体的問題について、質問し合う。⑦発表をした日本人学生のクラスで、学生とお楽しみ会を企画し、交流を深める。

【スケジュール】詳しいスケジュールについては、メールで連絡をするが、パワーポイントのプレゼンテーションは、11月から12月まで、各自1回。子供たちへ送る絵手紙の締め切りは、11月中旬、子供たちからの返信の受け取りは1月初旬、小学校クラス訪問は、1月末、学校訪問の感想スピーチは1月末～2月の予定。日本人学生とのお楽しみ会は、12月末の予定。

【成績評価】パワーポイントを用いたスピーチと話し合い参加、子供達への絵手紙提出、小学校訪問、学校訪問の感想スピーチと話し合い参加、以上により成績をつける。

日本研究D（芸術）

石井 健 （いしい たけし）　月・2　書道演習室

書道や文字を書くことに用いる道具の歴史や製法、文化的意味について、具体的な事例を取り上げながら学びます。

【内容】筆、墨、紙、硯、鉛筆、ボールペン、ワードプロセッサーなど、書道や文字を書くことにかかわる道具について概観した上で、歴史や製法、文化的意味などの基本的な事項について学びます。代表的な文房具を選び、図版や映像・文献資料を使いながら理解を深めるようにし、学生の皆さんにも、各自テーマを選んで、発表をしてもらいます。

【テキスト】とくに用いない。必要に応じ資料を配布する。

【評価方法】平常点30% 発表30% レポート40%

**「日本研究A・C」「日本研究演習B・D」は、春学期に開講します。

***書道演習室は 芸術・スポーツ科学系研究棟4号館2階 にあります。

資料３　短期留学プログラム（ISEP）科目一覧

秋学期からのプログラムであるため、2010 年度秋学期から掲載する。

2010 年度 秋学期

	科目名	担当教員
1	ISEP Seminar I	有澤 知乃（留学生センター）
2	Education in Japan	渋谷 英章（国際教育教室）
3	Cross-Cultural Teaching Practice	戸田 孝子（国際教育教室）
4	Counseling in Japan	佐野 秀樹（カウンセリング教室）
5	Cross-Cultural Studies	Joshua P. Dale（英語科教室）
6	Philosophy and Ethics in Japan	栗原 裕次（社会科教室）
7	Cultural History of Japan	有澤 知乃（留学生センター）
8	Study of Japanese Print-Making	清野 泰行（美術科教室）
9	Introduction to Japanese Music I: Playing Koto and Shamisen	有澤 知乃（留学生センター）
10	Recreation and Sports in Japan I：Table Tennis	渡辺 雅之（保健体育科教室）
11	Walking Convention: The Memory of History and War	渡辺 雅之（保健体育科教室）
12	Recreation and Sports in Japan II：Skiing	岩本 良裕（保健体育科教室）
13	Geography of Japan II: Geography of Seaside and Mountain Area in Tokyo Prefecture	古田 悦造（日本研究教室）
14	Japanese Business Enterprise	原田 和雄（自然環境科学教室）
15	Environmental Education Seminar	木俣美樹男、原子栄一郎、樋口利彦、小泉武栄（環境教育教室）

2011 年度 春学期

	科目名	担当教員
1	ISEP Seminar II	有澤 知乃（留学生センター）
2	Cross-Cultural Ideas	戸田 孝子（国際教育教室）
3	School in Japan	浅沼 茂（国際教育教室）
4	Introduction to Psychophysiology	池田 一成（学校心理教室）
5	Cultural Social Psychology of the Japanese	杉森 伸吉（学校心理教室）
6	Culture Clashes	Joshua P. Dale（英語科教室）
7	Natural History in Japan	藤本 光一郎、中野幸夫（自然環境科学教室）
8	Modern and Contemporary Culture of Japan	有澤 知乃（留学生センター）
9	Traditional Performing Arts of Japan	有澤 知乃（留学生センター）
10	Introduction to Japanese Music II：Playing Shakuhachi	筒石 賢昭（音楽科教室）
11	Theatre Workshop	高尾 隆（表現コミュニケーション教室）
12	Recreation and Sports in Japan IV：Cycling	渡辺 雅之（保健体育科教室）
13	Japanese Budo: Judo	射手矢 岬（生涯スポーツ教室）
14	Recreation and Sports in Japan III：Aquatic Sports (Swimming)	岩本 良裕（保健体育科教室）
15	Geography of Japan I: Historical Landscape of Yokohama and Kamakura in Kanagawa Prefecture	古田 悦造（日本研究教室）

資料３　短期留学プログラム（ISEP）一覧

2010 年度秋学期

Title	**Cultural History of Japan**		
Instructor	ARISAWA, Shino	**Place**	S301
Day/ Period	Monday 2nd period		

Overview

The subject will look at Japan's cultural history from ancient times to the late 19th century. Lectures will explore various aspects of Japanese culture both chronologically and thematically so that students will grasp a broad history as well as gain an in-depth understanding of specific issues. Students will develop their critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in both oral and in written format.

Textbooks and Relevant Readings

1. Ebrey, Patricia Buckley; Walthall, Anne; Palais B. James. 2008. *East Asia: A cultural, social and political history*. Wadsworth.
2. Varley, Paul. 2000. Japanese culture (4th edition). University of Hawaii Press.
3. Jansen, Marius. 2000. The Making of modern Japan. Harvard University Pres.
4. Nishiyama, Matsunosuke (translated and edited y Gerald Groemer.) 1997. *Edo Culture: daily life and diversions in urban Japan, 1600-1868*. University of Hawaii Press.

Schedule

1. Introduction
2. Early society and emergence of civilization
3. Ancient mythology
4. Introduction of Buddhism
5. Imperial institution and aristocrats culture
6. Literature of the court – *The Tale of Genji*
7. Rise of warriors and Medieval taste
8. War stories – *The Tale of the Heike*
9. Introduction of Christianity
10. Rising city of Edo and commoners culture
11. 12. 13. Students presentation
14. Edo scholarship – Confucianism, Dutch Learning, and *Kokugaku* "National Learning"
15. Edo literature – *ukiyozôshi* "books of the floating world", *jôruri* dramas, and *haiku* poetries

Method of Determining the Final Grade

Attendance 15%
Oral presentation 25%
Final report 60%

Title	**Counseling in Japan**		
Instructor	SANO, Hideki	**Place**	Psychology Seminar Room A（心理学科 A 室（学習指導実験室）, 2nd floor of Humanity & Social Science Research Building No.2 (#6 on Campus Map)
Day/ Period	Monday 4th period		

Overview

1. Learn basic knowledge of counseling. 2. Comparing Japanese and home cultures 3. Discussion on common psychological elements across cultures.

Textbooks and Relevant Readings

Eric J. Marsh & David A. Wolfe (2005) Abnormal Child　Psychology, Wadsworth
J. E. Hecker & G. L. Thorpe Peason　(2005) Introduction to Clinical Psychology
Baba, K. & Tachibana, L. (2001) Counseling　Univ. of Air (in Japanese)
Kawai, H. (1970) Practice and Reality in Counseling　Seishinshobo (in Japanese)

Schedule	**Activities and Classroom Materials**

1. Definition of Counseling 2. Process of Counseling 3. Initial Meeting 4. Structure of Mind 5. Attitude and Counseling Theories 6. Case Study Ⅰ(published documents) 7. Case Study II (Video tapes) 8. Case Study (Student Presentation) 9. Role Play I (verbal) 10. Role Play II (noverbal) 11. Communication Exercises I 12. Communication Exercises II 13. Relationship between Counselor and Client 14. Evaluation in Counseling 15. Project Presentation	Role play Videotapes Communication Exercises
Method of Determining the Final Grade	
Project Reports Class Participation	

Title	**Philosophy and Ethics in Japan**		
Instructor	KURIHARA, Yuji	**Place**	C203
Day/ Period	Tuesday 2nd period		
Overview			
In this subject, we ask if there are any philosophical elements unique to Japan. To answer this, we focus on the single topic of the Japanese view of the human being. The typical view of the human being in Japan could be characterized as "communitarianism" in contrast with "individualism." Since this contrast is based on a modern Western philosophy and ethics such as Plato, Hobbes, and Rawls, we may have to make a comparison between Japanese and Western ways of philosophically thinking. To understand this view, we will read some important texts translated into English, including those of Nitobe, Watsuji, Doi, and Natsume.			
Textbooks and Relevant Readings			
For textbooks, see below. <References> Blocker, H. G., and Starling, C. I. Japanese Philosophy, SUNY Press, 2001. Carter, R. E. Encounter with Enlightenment--A Study of Japanese Ethics, SUNY Press, 2001.			
Schedule			
1. Introduction What is philosophy? Are there any philosophical elements unique to Japan? 2. Japanese ways of thinking philosophically Nitobe, Inazo. Bushido -- The Soul of Japan, ICG Muse, Inc., 2001 (originally published in 1905). 3. Philosophy and ethics in Japan Watsuji, Tetsuro. Rinrigaku (Ethics), SUNY Press, 1996 (org. in 1937). 4. Some philosophical ideas in Japanese culture Doi, Takeo. The Anatomy of Dependence, Kodansha International, 1973 Natsume, Soseki. My Individualism, Madison Books, 1992			
Method of Determining the Final Grade			
Attendance and participation 30% In-class presentation of term paper 20% Term Paper (four pages or more/double space) 50%			

Title	**Crosscultural Teaching Practice**		
Instructor	TODA, Takako		
Day/ Period	Tuesday 4th period	**Place**	S107
Overview			

This subject is an exchange programme for overseas as well as Japanese students. Students will exchange ideas on values and skills in teaching by the process of actual classroom teaching. After being divided into groups and understanding some aspects of teaching, each group will prepare a small teaching plan and try it in a class. The topics for plan will be based on Japanese primary and secondary school integrated program. While one group practices their lesson plan, others play the part of students. Students have to submit reports focused on cross-cultural findings by attending each practice and develop them to a term report focused on a topic in practical teaching.
Textbooks and Relevant Readings
Students can take special preparation tutorials, where reference advice will be given.
Schedule
A detailed schedule will be arranged according to the number of registered students.
Method of Determining the Final Grade
Students have to submit reports focused on cross-cultural findings by attending each practice and develop them to a term report focused on a topic in practical teaching.

Title	**ISEP Seminar: Aspects of Japanese Society and Culture**		
Instructor	ARISAWA, Shino	**Place**	N202
Day/ Period	Wednesday 2nd period		
Overview			
ISEP Seminar is available and **COMPULSORY** only for ISEP students. Students will take leading roles in weekly seminars where they will discuss and give presentations on their chosen topics about Japan, including social and cultural issues, arts, literature, politics, education and many other topics concerning the student's own interest. ISEP Seminar aims to develop critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in oral and written format. A couple of excursions and lectures by guest speakers are also planned for the students to broaden their perspectives on Japanese society and culture.			
Textbooks and Relevant Readings			
No specific textbooks are required.			
Schedule			
To be confirmed at the first class.			
Method of Determining the Final Grade			
Attendance 30% Oral presentation 30% Final report 40%			

Title	**Education in Japan**		
Instructor	SHIBUYA, Hideaki		
Day/ Period	Wednesday, 3rd period	**Place**	S401
Overview			
This subject title provides students with basic knowledge and information on Japanese education, and we would consider and discuss present situation and future perspective of Japanese education, comparing with that of students' home countries. (The Present and the Future of Education in Japan: from a Comparative Viewpoint) Topics of Education in Japan			
1) Outline of educational system, 2) School enrollment and attendance, 3) Examination and evaluation, 4) Private tutoring, 5) School discipline, 6) Lifelong learning, 7) Education and employment, 8) ICT and education, 9) Education and community Desirable participating students a) No special knowledge of pedagogy is required. b) Sufficient knowledge, information, and strong ideas about education in own country are necessary c) Positive attitudes for discussion are important			
Textbooks and Relevant Readings			
Japan's Education at a Glance 2006 (on the website of MEXT)			
Schedule			

1) Lectures on outline of education in Japan (4 periods)
2) Two Video Programmes on Education in Japan(5 periods)
3) Group Discussion and Group Work: Comparative analysis of Education in Japan (5-6 periods)

Method of Determining the Final Grade

Subject grading will be based on a report presentation in class about education of students' own society and a final report on comparative analysis of it with Japanese education.

Title	**Cross-Cultural Studies**		
Instructor	Joshua Paul Dale		
Day/ Period	Wednesday 4th period	**Place**	S105

Overview

In this class, we will investigate what happens when people experience a different culture for the first time. What kind of experiences trigger culture shock, and how does one recover from it? How do people adapt to life in a culture different from the one in which they grew up? We will discuss not only the psychological aspects of this condition, but also the literary aspects; i.e. how cross-cultural experiences are organized as narratives and told as stories.

Textbooks and Relevant Readings

Reading material will consist of selected passages from various ethnographies and travel narratives, magazine articles, and internet blogs. The format of the class is lecture and discussion. There are no textbooks for this class.

Schedule

1. Introduction
2. Culture Shock and the Production of Cross-Cultural Knowledge
   Excerpt from Stranger in the Forest by Eric Hansen
   Excerpt from Lydia Minatoya, Talking to High Monks in the Snow
   "Neighborhood Seismic Activity," Japan Times article by Elizabeth Kiritani
3. Cross-Cultural Exchange on the JET Program
   History and purpose of the JET Program
   Excerpts from internet blogs of JET Program participants
   Songs: Steve Bruce's Alive in Numata
4. Cross-cultural Adaptation
   Essay from internet: "My Life with the Nanking Massacre" by Pemmican

Method of Determining the Final Grade

Short writing assignments 20%
Oral Presentation 10%
Final report 70%

Title	**Traditional Music of Japan**		
Instructor	ARISAWA, Shino	**Place**	N205
Day/ Period	Thursday 2nd period		

Overview

The subject will look at various forms of Japanese traditional music ranging from religious ceremonial performance to secular entertainment. Various instrumental genres such as *koto* zither, *shamisen* lute, and *shakuhachi* flute, as well as vocal genres will be discussed. The focus will be on historical and social background as well as musical features of each genre discussed with audio and visual materials. Students will be expected to take part in class discussions and to develop their critical skills in analysing musical performances.

Textbooks and Relevant Readings

(1) Provine, Robert C; Tokumaru, Yosihiko; Wizleben, J. Lawrence. eds. 2002. *Garland Encyclopedia of World Music, East Asia : China, Japan, and Korea*. New York: Routledge.
(2) Tokita, Alison McQueen and David W. Hughes eds. 2007. *The Ashgate research companion to Japanese* music. Aldershot, Hants : Ashgate
(3) Thornbury, Barbara E. 1997. The Folk Performing Arts: Traditional Culture in Contemporary Japan. Albany: State University of New York Press

Schedule

1. Introduction
2. *Kagura* – Shinto ritual music, *Shômyô* – Buddhist sutra chanting
3. *Gagaku* court ensemble music
4. *Biwa* lute – from blind monks ritual to warriors moral education
5. *Shamisen* lute
6. *Koto* zither
7. *Shakuhachi* flute
8. Music for the *Noh* theatre
9. Music for the *Kabuki* theatre and *Bunraku* puppet theatre
10. 11. 12. *Students presentation*
13. *Minyô* folk songs
14. Western influence on traditional music of Japan
15. New and creative traditions

Method of Determining the Final Grade

Attendance and class participation	15%
Oral presentation	25%
Final report	60%

Title	**Study of Japanese Print-Making**		
Instructor	KIYONO, Yasuyuki	**Instructor's Room**	Art and Sports Science Division, Research Building, No.4, 3F
Day/ Period	Thursday 3rd period	**Place**	Printmaking Room ◎ (West Lecture Hall (W), 3F)

Overview

Learn about the ways of expression of Japanese traditional woodblock print known as Ukiyo-e, which had a major influence on the Impressionists. Create prints using the basic techniques. Also visit the actual studios such as paper making studios and print studios of the traditional craft that have supported those techniques, and study the themes of "expression and materials" as well as "expression and tools."

Textbooks and Relevant Readings

Handout will be provided as necessary

Schedule

Tentative subjects covered in 15 weeks (subject to minor modification depending on the progress of lectures):

Week	1:	Introduction
	2~3:	History and techniques of printmaking
	4:	Visiting paper making studio
	5:	Making prints (sketch)
	6:	Visiting Machida City Museum of Graphic Arts or Edo-Tokyo Museum
	7~10:	Making prints (cutting)
	11~14:	Making prints(printing)
	15:	Meeting for a joint review

Method of Determining the Final Grade

The final grade will be based on:

Attendance and class participation	40%
Assignments	60%

Title	**Recreation and Sports in Japan: Table Tennis**		
Instructor	WATANABE, Masayuki	**Place**	Table tennis gymnasium
Day/ Period	Tuesday 3th Period		

Overview

The specific character of table tennis is that anyone can play it easily at any time. And also safety and moderately. If you will get better, you can play it at higher intensity. I hope you can enjoy table tennis and smash the ball splendidly through learning ARP theory, which is a theory of body movement for table tennis invented by the former world table tennis champion Ms. Noriko YAMANAKA. ARP means the Axis, the Rhythm, and the Posture.

Title	Walking convention: The memory of history and war		
Instructor	WATANABE, Masayuki	Place	Around Yasukuni Shrine, Tama area, etc
Day/Period	Thursday 5th period		
Overview			
In this Tama area there are many historic architecture and spots. Also Yasukuni-Jinja, Chidorigafuchi Cemetery and etc., which concern to the memory of the war, are there in this neighborhood. Then, I hope you go to these area or spots, watch them, and think something as you walk. The most unique point of this class is that we discuss while walking.			
Method of Determining the Final Grade			
We take attendance seriously.			

Title	Geography of Japan Ⅱ : Geography of Seaside and Downtown Area in Tokyo Prefecture		
Instructor	FURUTA, Etsuzo	Place	First orientation: C203
Overview			
1. Orientation 2. Half day Field Trip at Shinjuku district. 3. One day Field Trip at Waterfront Area in Tokyo. 4. One day Field Trip at Mountain Area in Tokyo.			
Textbooks and Relevant Readings			
In this lesson, instructor distributes materials.			
Schedule			
1. Oct. 15 Fri. 9:00～12:00 Orientation at C203. 2. Oct. 15 Fri. 13:00～17:00 Half day Field Trip at Shinjuku district . 3. Oct. 16 Sat. 9:00～17:00 One day Field Trip at Central and Downtown Area in Tokyo. 4. Oct. 17 Sun. 9:00～17:00 One day Field Trip at Waterfront Area in Tokyo.			
Method of Determining the Final Grade			
The final grade will be based on: Attendance and Class Participation 100%			

Title	Japanese Business Enterprises		
Instructor	HARADA, Kazuo	Place	TBA
Day/ Period	Field trips (on Fridays; date to be announced); Lectures (date to be announced)		
Overview			
The principle aim of this subject is to gain an understanding of modern Japanese business enterprises and Japanese culture through field trips to local science- and food-oriented companies and factories in the greater Tokyo area.			
Schedule			
Orientation: 12:30-12:45, October 18th (Mon) at Room 301 on 3rd floor of the Humanities and Social Sciences/ Natural Science Division, Research Building, No.3（人文社会科学系・自然科学系研究棟 3 号館 3 階 301 号室） Introductory class (October) Lecture #1: Fermentation in Japanese food products & introduction to Field trip #1 (November) Field trip #1: Ozawa-shuzo (November) Lecture #2: Introduction to Field trip #2 (December) Field trip #2: Tsukiji Market (December) Lecture #3: Introduction to Field trip #3 (January) Field trip #3: to be announced (January)			
Method of Determining the Final Grade			
Attendance and written reports concerning each of the three field trips.			

Title	Recreation and Sports in Japan Ⅱ : Skiing
Instructor	IWAMOTO, Yoshihiro
Day/Period	This is an intensive class of skiing and other winter sports. We take 3 nights and 4 days, February, 2011. An orientation will be held in October. See the bulletin board in Int'l Affairs Office.

Place	Akakura, Niigata Prefecture
Overview	
This is an intensive subject. Four-day Skiing in the Mountain at Myoukou Kogen in February. An orientation will be held in October. Please see the bulletin board in October for details. Beginners are welcome.	
Method of Determining the Final Grade	
We take attendance seriously. You must submit a report after completion of the class.	

2011 年度 春学期

Title	**Cross-Cultural Ideas**		
Instructor	Takako Toda	**Instructor's room**	
Day/ Period	Tuesday 4th period		
Overview			
This subject is an exchange program for overseas students and Japanese students. Each student will prepare his own presentation: a) an introductory speech of himself and his hometown or hobbies (April & May), b) topics for class discussion based on his observation or his readings on youth culture, society, our future, or something which has general interest in the class. (June & July.) The key sentences of the presentation has to be translated both in English and Japanese, with which we will have time for discuss translatability at the end of each session. Students have to submit reports focused on cross-cultural findings by attending each session and develop them to a term report focused on a specific topic in cross-cultural understanding.			
Textbooks and Relevant Readings			
Students can take special preparation tutorials, where reference advice will be given.			
Schedule			
A detailed schedule will be arranged according to the number of registered students.			
Method of Determining the Final Grade			
Submission of Class Registration Paper that shows the purpose of taking this class and the students' own learning goals to be achieved by the end of the class. Submission of Presentation Paper including a summary of their presentation. Submission of Term Report focused on cross-cultural findings by listening to other students' presentations and participating in discussions.			

Title	**Modern and Contemporary Culture of Japan**		
Instructor	Shino Arisawa	**Instructor's room**	International Student Exchange Center, 2nd floor, N-building
Day/ Period	Wednesday 2nd period		
Overview			
This course will explore Japan's cultural transformations from the late 19th century to present, focusing on key issues in Meiji restoration, Taisho culture, nationalism, war, and cultural reconstruction in the post-war period. Topics will cover art, literature, media, popular entertainment, and other related matters. Lectures will explore cultural transformations both chronologically and thematically so that students will grasp a broad history as well as gain an in-depth understanding of specific issues. Students will develop their critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in both oral and in written format.			
Textbooks and Relevant Readings			
5. Ebrey, Patricia Buckley; Walthall, Anne; Palais B. James. 2008. *East Asia: A cultural, social and political history*. Wadsworth. 6. Varley, Paul. 2000. Japanese culture (4th edition). University of Hawaii Press. 7. Jansen, Marius. 2000. The Making of modern Japan. Harvard University Pres.			
Schedule			
To be announced at the first class			
Method of Determining the Final Grade			
Attendance 15% Oral presentation 25% Final report 60%			

Title	**ISEP Seminar II**		
Instructor	Shino Arisawa	**Instructor's room**	International Student Exchange Center, 2nd floor, N-building

Day/ Period	Wednesday 3rd period
Overview	
ISEP Seminar is available and **COMPULSORY** only for ISEP students. Students will take leading roles in weekly seminars where they will discuss and give presentations on their chosen topics about Japan, including social and cultural issues, arts, literature, politics, education and many other topics concerning the student's own interest. ISEP Seminar aims to develop critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in oral and written format. A couple of excursions and lectures by guest speakers are also planned for the students to broaden their perspectives on Japanese society and culture.	
Textbooks and Relevant Readings	
No specific textbooks are required.	
Schedule	
To be confirmed at the first class.	
Method of Determining the Final Grade	
Attendance 30% Oral presentation 30% Final report 40%	

Title	Culture Clashes		
Instructor	Joshua Dale	**Instructor's room**	
Day/ Period	Wednesday 4th period		
Overview			
This class will investigate how cultural productions travel between cultures. How is global culture produced, and who determines its content?			
Textbooks and Relevant Readings			
Reading material will consist of selected passages and from various media sources. The format of the class is lecture and discussion. There are no textbooks for this class.			
Schedule			
1. Introduction to the class and teaching method 2. Discussion of material related to culture clashes 3. Discussion of topics for first group projects. 4. Preparation for first group projects. 5. Presentation of first group projects. 6. Evaluation and Feedback of first group projects. 7. Discussion of second unit on culture clashes 8. Discussion of topics for Oral Presentation 9. Oral Presentations 10. Evaluation and Feedback of Second Oral Presentation 11. Discussion of topics for Final Reports 12. Final Report Organization: main idea, thesis statement, development, conclusion 13. Final Report Conferences 14. Final Report Conferences 15. Conclusion of Course			
Method of Determining the Final Grade			
Short writing assignments and group projects: 20% Oral Presentation: 10% Final report: 70%			

Title	Traditional Performing Arts of Japan		
Instructor	Shino Arisawa	**Instructor's room**	International Student Exchange Center, 2nd floor, N-building
Day/ Period	Thursday 3nd period		
Overview			
This course will look at various forms of Japanese theatre, music, and dance traditions ranging from religious ceremonial performance to secular entertainment. Genres to be focused include *kabuki*, *noh*, *ningyô-jôruri* puppet theatre, and instrumental genres such as *koto*, *shamisen*, and *shakuhachi*, as well as vocal genres. The focus will be on historical and social background as well as features in performance discussed with audio and visual materials.			

Textbooks and Relevant Readings
(4) Tokita, Alison McQueen and David W. Hughes eds. 2007. *The Ashgate research companion to Japanese* music. Aldershot, Hants: Ashgate. (5) Provine, Robert C; Tokumaru, Yosihiko; Wizleben, J. Lawrence. eds. 2002. *Garland Encyclopedia of World Music, East Asia: China, Japan, and Korea*. New York: Routledge. (6) Inoura,Yoshinobu and Toshio Kawatake. 1981. The Traditional Theater of Japan. New York: Weatherhill.
Schedule
To be announced at the first class
Method of Determining the Final Grade
Attendance and class participation 15% Assignments 25% Oral presentation 60%

Title	**Introduction to Psychophysiology**		
Instructor	Kazunari Ikeda	**Instructor's Room**	Room 310 in CRSEP
Day/ Period	Thursday 4th period		
Overview			
In psychophysiology the relation of mind with body is studied via measuring physiological responses under some psychological situation. If persons feel goodwill toward somebody, for instance, their pupils in eyes would be dilated in addition to slowing of their heart rates. This course would introduce participants to basic and applied knowledge in psychophysiology.			
Textbooks and Relevant Readings			
No textbook is used in this class whereas the following books might be referenced. Andreassi, J. L. (2006) Psychophysiology, 5th ed. Lawrence Erlbaum Associates. Hugdahl, K. (1995) Psychophysiology. Harvard University Press. Stern, R. M., Ray, W. J., & Quigley, K. S. (2001) Psychophysiological Recording, 2nd ed. Oxford University Press.			
Schedule			
1. Orientation 2. Introduction 3. Mind and Body 4. Bioelectric Measurement 5. Electrodermal Activity 6. Cardiovascular Activity 7. Respiratory and Gastrointestinal Responses 8. Eye Responses	9. Muscle Activity 10. Electroencephalography 11. Event-related Potentials 12. Lie Detection 13. Biofeedback 14. Neuroimaging 15. Conclusion		
Method of Determining the Final Grade			
Based on the rate of class attendance, outcomes of short examinations across the course would be evaluated.			

Title	**Cultural Social Psychology of the Japanese**		
Instructor	Shinkichi Sugimori	**Instructor's room**	
Day/ Period	Friday 5th period		
Overview			
In this class, we will discuss about the foreign students' questions on Japanese customs and behavior. Through the discussion and lectures, the students will deepen the understanding of the Japanese cultural social psychology.			
Textbooks and Relevant Readings			
Text books and suggested readings: I will assign appropriate learning materials in the class.			
Schedule			
1 .Why Japanese people are hesitant to talk with foreigners? : The communication patterns of the Japanese 2. Japanese way of expressing aggressiveness: 2-1. Psychology of aggression 2-2. Bullying in Japanese schools 3. Japanese individual-group relationships: 3-1. Children's social development through long-term outdoor life experiences. 3-2. What does 'we' mean to the Japanese? Comparison of Japan, Korea, and Canada. 3-3. Stereotypic cognition and risk perception 4. Political attitudes and behavior of the Japanese youths.			

Method of Determining the Final Grade
Attendance (30points: First absence: -5points, other absences: -10points) Discussion (contribution to the class discussion: 40points) Small reports (15points for each)

Title	**Recreation and Sports in Japan：Cycling**		
Instructor	Masayuki Watanabe	**Instructor's room**	
Day/ Period	Tuesday 3rd Period		
Overview			
Cycle sports are the most favorite and popular sports in Japan. In this class you will be able to ride not only racing cycle but also tandem cycle. Tandem cycle is for two persons use. Both riders cooperate in riding. Riding cycle makes you feel a wind.			
Textbooks and Relevant Readings			
Schedule			
Method of Determining the Final Grade			

Title	**Introduction to Japanese Music: Enjoy Playing *Shakuhachi***		
Instructor	Kensho Takeshi	**Instructor's Room**	3rd floor, Arts and Sports Science Building 2
Day/ Period	Tuesday 5th period		
Overview			
The purpose of this subject is to examine and demonstrate the *shakuhachi* in relation to Japanese traditional music and Japanese culture. *Shakuhachi* has a long history, and is also famous abroad as a representative Japanese traditional instrument. Students study how to make sound, then will be to play a simple piece. Also they study Japanese cultural background through to *shakuhachi*. *We are ready to borrow *shakuhachi* during the class period.			
Textbooks and Relevant Readings			
Kitahara, I., Matsumoto, M., & Matsuda, A, (1990). The Encyclopedia of Musical Instruments, the *Shakuhachi*. Tokyo Ongaku no Toko Sha. (2) Neptune, J, Kaiazan (1978), *Shakuhachi*, Self- Published. **Other handout pieces will be provided as necessary.**			
Schedule			
Class 1-2 Orientation Explain the history of Japanese traditional music Japanese music Class 3-14 How to make a simple tone (to be continued) Demonstrate basic tone Proceeding sound Breathing Lip Shape Articulation Tunes: (1) Japanese Play Songs, *Warabeuta* (2) Japanese Folk Songs, *Minyo* (3) Japanese Original Tunes, *Honkyoku* (4) World Music Class 15 Class concert			
Method of Determining the Final Grade			
The grade will be based on: Performance Skill 60% Concert Demonstration 30% Attendance and Class Participant 10%			

Title	**Japanese Budo: Judo**		
Instructor	Misaki Iteya	**Instructor's Room**	
Day/Period	Thursday 2nd period		
Overview			

This lesson is designed for beginners. You will learn Japanese traditional behavior through practicing Judo: how to put on Kimono, walk on Tatami, make Japanese bow, etc. You will also come to understand some fundamental techniques of Judo. Simultaneously, we will consider the educational implication of Judo.
Textbooks and Relevant Readings
Schedule
1) Orientation 2) History and characteristics of Judo 3) Fundamental skills (Ukemi, Taisabaki, etc.) 4) Throwing techniques [Nage waza] (part 1) 5) Throwing techniques (part 2) 6) Throwing techniques (part 3) 7) Groundwork techniques [Katame waza] (part 1) 8) Groundwork techniques (part 2) 9) Groundwork techniques (part 3) 10) Forms for throw (formal exercise, part 1) 11) Forms for self-defense (formal exercise, part 2) 12) Practical techniques (combinations) 13) Practical techniques (counter attack) 14) The rules and methods of the match 15) Skill tests and evaluation
Method of Determining the Final Grade
Attendance of more than two thirds (2/3) of the classes

Title	**Natural History in Japan**		
Instructor	Koichiro Fujimoto & Yukio Nakano	**Instructor's room**	
Day/Period	Friday 2nd period and two field trips on Saturday or Sunday (1 day trips)		
Overview			
We will give students some basic knowledge of natural sciences, especially in geological and environment science areas, through lectures and field activities. Some basic skills of observing living things and natural phenomena will also be given. After completing the subject, students are expected to have some basic knowledge to understand Japanese nature as well as enough skills to carry out self-study on their natural environment.			
Textbooks and Relevant Readings			
Printed materials (instructions) will be delivered.			
Schedule			
1. Introduction / Lecture: Explanation of what Natural History is, why we have to learn Natural History, and How we can understand Natural History / Explanation of what we will learn and where we will learn. (Tokyo Gakugei University, TGU) 2. Lecture: Brief explanation of the mechanism of global warming and a current situation for global warming in Japan.(TGU) 3. Observation trip: Observation of "The Exhibition Room of National Institute of Information and Communications Technology" to study about global warming researches in Japan.(TGU) 4. Lecture: Brief explanation of pollutions and their history in Japan, especially about "Four Big Pollution Diseases of Japan" (TGU) 5. Outdoor activity: Observation and mesurement of air pollutants around TGU. (TGU) 6. Observation trip: Observation of "National Museum of Emerging Science and Innovation" to study about nature and science in Japan. (1day trip to Ueno) 7. Lecture: Brief explanation on the characteristics of geological hazards such as volcanic eruptions and earthquakes. (TGU) 8. Lecture: Brief explanation on major geological hazards in Japan including Japanese volcanoes and hot springs. (TGU) 9. Geology Field Trip: Observation of typical volcanic landscapes and active volcano. (Field trip to Hakone, 1 day trip) 10.Field activity around TGU: Observation of volcanic ash from Mt. Hakone and Mt. Fuji Ground water and landscape			
Method of Determining the Final Grade			
Assignments: Students are asked to submit a report on each activity including 1day trip.			

Title	**Theatre Workshop**		
Instructor	Takashi Takao	**Instructor's room**	
Day/ Period	Thursday 5th period		
Overview			
The aim of this course is to experience a theatre workshop. The class is constructed with games, activities and group works based on a theatre theory called "impro"(improvisational theatre). Key words are playfulness, spontaneity, imagination, creativity, storytelling, courage, facilitation, communication and collaborative innovation. We may make a group theatre			

performance. Some Japanese students will be invited to the class. Students will experience cross cultural communication including both verbal and non-verbal. Theatrical expericence is not needed. Active participation will be welcomed.
Textbooks and Relevant Readings
These books are recommended as relevant readings; Johnstone, Keith "Impro:Improvisation and the Theatre" Routredge, 1979 Johnstone, Keith "Impro for Storytellers" Routledge, 1999
Schedule
A curriculum will be designed according to the students.
Method of Determining the Final Grade
Attendance, class participation and final report.

Title	**School in Japan**		
Instructor	Shigeru Asanuma	**Instructor's room**	
Day/ Period	Friday 4th period		
Overview			
The purpose of this class is to understand the curriculum and instruction in Japanese schools. There are many reports on Japanese education through eyes of mass media. But there are not so many researches on educational content and way of teaching of Japanese schools. We will focus on the classroom teaching of Japanese schools and try to have in-depth understanding what the schools do in Japan. We will encourage to observe the Japanese schools in terms of their own eyes rather than the non-evidential fraud journalistic eyes. For this purpose, it is imperative to seek the empirical evidence through students' own observations.			
Textbooks and Relevant Readings			
John Dewey SCHOOL AND SOCIETY			
Schedule			
1, Orientation 2, The contemporary curriculum reforms in Japan 3, Comparative study of the students' own countries' curricula and schools: The students are required to analyze and summarize the changing issues and meanings of the individual country's school curriculum. 4, Continued 5, Continued 6, Observing schools 7, Discussing the implication of the individual curriculum and teaching in the Japanese schools 8, Discussing the standards which may be able to be used to compare with the qualities of various countries. 9, Observing schools 10, Discussing the differences of Japanese school curriculum from the students' own countries 11, Continued 12, Observing schools 13, Discussion 14, Final presentation 15, Conclusion			
Method of Determining the Final Grade			
The participation in the individual class Final Report (4,000 words Paper)			
Method of Determining the Final Grade			
The final grade will be based on: Attendance and Class Participation 100%			

Title	**Geography of Japan Ⅰ: Historical Landscape of Yokohama and Kamakura in Kanagawa Prefecture**		
Instructor	Etsuzo Furuta	**Instructor's room**	
Day/ Period			
Overview			

1. Orientation 2. Half day Field Trip at the Surrounding area of the University. 3. One day Field Trip in Yokohama 4. One day Field Trip in Kamakura
Textbooks and Relevant Readings
In this lesson, instructor distributes materials.
Schedule
(TENTATIVE) 1. April 15 Fri. 11:00-12:00 Orientation at S310. 2. April 15 Fri. 13:00-17:00 Half day Field Trip at Surrounding area of the University. 3. April 16 Sat. 9:00-17:00 One day Field Trip in Yokohama. 4. April 17 Sun. 9:00-17:00 One day Field Trip in Kamakura.
Method of Determining the Final Grade
The final grade will be based on: Attendance and Class Participation 100%

Title	**Recreation and Sports in JapanⅢ：Aquatic Sports (Swimming)**		
Instructor	Yoshihiro Iwamoto	**Instructor's Room**	
Day/ Period	Sunday in late July / Three days in early August		
Place	Swimming Pool of the University & Ubara sea at Chiba		
Overview			
Beginners are welcome.			
Textbooks and Relevant Readings			
Schedule			
This is an intensive subject. Two-day swimming in the swimming pool of our university in late July, and three-day swimming in the sea at Chiba prefecture [Shiraku-so at Ubara, Katsuura city] in early August. An orientation will be held in April. Please see the bulletin board in April for details. This class is equivalent to a 15 sessions of 90 minutes.			
Method of Determining the Final Grade			
We take attendance seriously. You must submit a report papers after completion of the class.			

資料４　主な行事の写真

竹早小学校との交流（教員研修留学生）

竹早小学校との交流（ISEP 留学生）

江戸東京たてもの園見学（教員研修留学生）

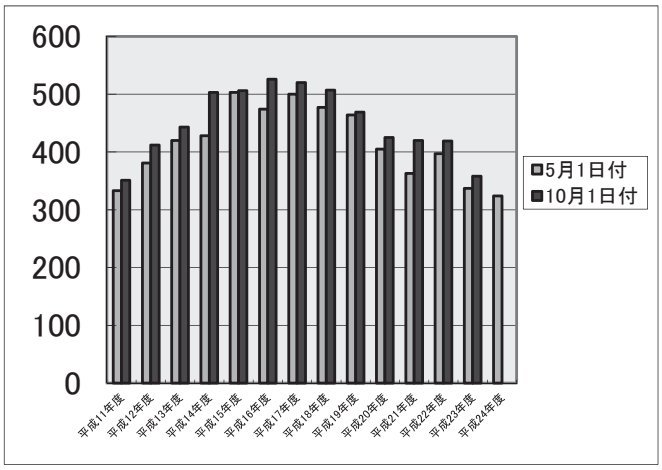
藍染め体験（日本語日本文化研修留学生）

国際交流カフェ

国際交流合宿

参考資料　本学における留学生数（国際課の資料による）

留学生数の推移



外国人留学生数一覧

留学生区分・種別			学費区分	留学生数																
				１６年		１７年		１８年		１９年		２０年		２１年		２２年		２３年		２４年
				５月	10月	５月	10月	５月	10月	５月	10月	５月	10月	５月	10月	５月	10月	５月	10月	５月
大学院レベル	大学院生	博士課程	国費	3	3	2	2	4	4	6	6	8	8	11	11	11	11	7	7	5
			外国政府派遣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			私費	8	8	14	14	14	14	11	11	11	10	8	8	6	6	11	11	13
		修士課程	国費	20	20	20	20	18	18	12	12	8	8	12	13	15	14	11	11	6
			外国政府派遣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			私費	148	148	154	147	141	139	133	127	121	120	106	111	111	112	119	103	99
	研究生	研究留学生	国費	12	21	16	22	15	21	14	21	15	19	8	12	5	7	3	6	3
		研究生	私費	125	136	99	116	91	106	85	90	63	82	58	84	76	91	61	65	41
	教員研修留学生		国費	14	29	15	25	10	25	15	25	10	24	14	28	13	28	14	27	13
	日本語予備教育生		国費	3	4	5	0	6	4	9	2	9	8	12	6	7	2	3	2	6
	特別聴講学生	交換留学生・一般プログラム	私費	2	4	3	1	1	1	0	0	11	7	7	8	6	5	1	5	7
	科目等履修生		私費	2	2	0	1	2	2	1	1	1	1	2	3	3	4	0	0	3
	小　計			337	375	328	348	302	334	286	295	257	287	238	284	253	280	230	237	196
学部レベル	学部生		国費	2	2	1	1	1	1	3	3	5	5	5	5	3	3	1	1	0
			外国政府派遣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			私費	59	58	66	66	66	65	61	60	55	53	46	43	45	41	43	43	46
	日本語日本文化研修留学生		国費	21	28	28	27	27	20	20	15	15	14	14	20	20	10	10	17	17
	特別聴講学生	交換留学生・一般プログラム	私費	40	42	44	51	54	58	66	68	51	47	43	52	59	61	38	50	54
		交換留学生・短期留学プログラム	私費	14	21	28	24	24	26	25	26	22	19	16	16	16	23	14	9	8
	科目等履修生		私費	1	0	5	3	3	3	3	2	0	0	1	0	1	1	1	1	3
	小　計			137	151	172	172	175	173	178	174	148	138	125	136	144	139	107	121	128
合　計				474	526	500	520	477	507	464	469	405	425	363	420	397	419	337	358	324
			国費	75	107	87	97	81	93	79	84	70	86	76	95	74	75	49	71	50
			外国政府派遣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			私費	399	419	413	423	396	414	385	385	335	339	287	325	323	344	288	287	274